

Knife and Pistol Fighting

ナイフ・ピストル ファイティング

初見良昭 著

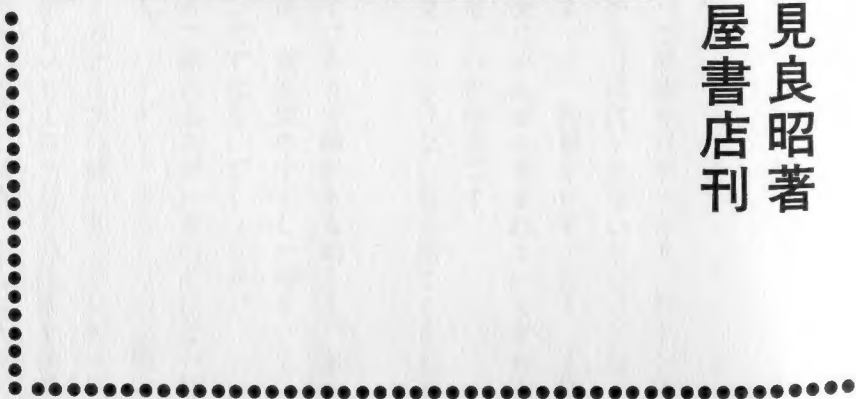


土屋書店

ナイフファイティングと
ピストルファイティング



初見良昭著
土屋書店刊



ナイフ術とピストル術

私の少年の頃は、ナイフや小刀を使って鉛筆をけずったり、竹トンボを作ったりと生活や遊びの中でナイフや小刀は欠かせないものでした。近頃の子供達は、機械化された工具によって、鉛筆をけずったり、工作をするものですから、ナイフを使う機会にぜんぜん恵まれていませんし、危険だといわれて、さわらせてもらえないのが現状です。

そのために大人になっても、果物の皮一つむけない者も出てくるしまつです。

現代人は、ナイフは危険なもの、遠くにありて眺めるもの……。ということで「ナイフ術」などというものは、蜃気楼の中でしか輝やいていないのではないかと思っている人が多いのではないのでしょうか。

そこで私は、アメリカへ行ったらナイフ術の名人がいるのではないだろうか？ 例えば、ボーイナイフの名人、バイダリアサンドバの決闘のヒーロー、ジェムスボーイ、カーボーイのナイフの使い手、インディアナ、そして、ターザン……。などなつかしいヒーローたちの技術を伝承している人々、また、近くは海兵隊だっているでしょう。そんな人々と

◀古銃にナイフがついて
いるナイフガン



の未知との遭遇を期待しながら渡米したのですが、外国の人達がいまだに日本人はチョンマゲ姿で生活している者がいると見るように、アメリカでの「ナイフ術」の名人の生存は、昔し語りのようでありました。

ニューヨークからロスアンジェルスへ向かう路々、オハイのジャーマンタウンのマイアミキャンプでは、世界の格闘技のプロフェッショナルが、三百名ほど、私の格闘技のテクニクを待ちうけておりました。

試合の結果、私のマーシャルアーツは、彼等を子供のようにテイチングする結果となりました。彼等は、私に対して、ナイフを教えてくれとせがみました。私は即座に「オーケー」を出しました。彼等は大喜びしました。

武器の進歩とか、物質文明というものは、人間が生きていくための基本とでもいいますか、最も基礎となる母体を殺してしまうものなのです。格闘技、マーシャルアーツの基本というものが、世界的に根本から消えさつておりました。

これは日本の武道にもいえることであります。ここで私が紹介する「ナイフ術・ピストル術」そしてその感覚を生んだものは、私が継承した死生観の中で成長した九百年の兵法の気であり、その生氣とは、体術なの

です。

何の武道、格闘技でもそうですが、無刀真剣型体術を母体として生まれたものでなければ要をなしません。九百年の正しい教え、それは、花性和楽、平和に生き、平和を守る正義のために、このナイフ術・ピストル術を、または芸術として正しく修業して下さい。また、アクションの考証としての一助になれば幸いです。

昭和五十八年三月十日

高松先生生誕の日

初見良昭

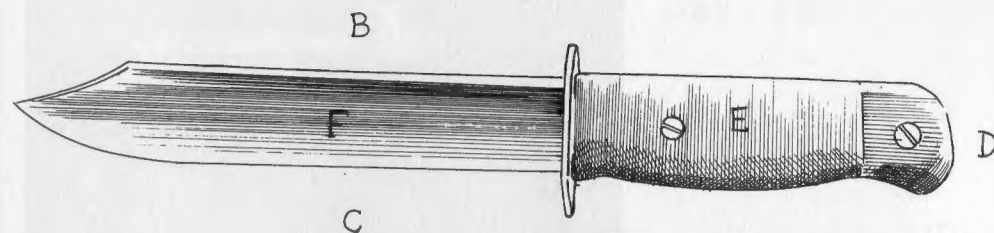




海兵隊員の訓練.....	38
マイアミキャンプでの 彼等のコレクションを前にして.....	52

第2章 マイアミキャンプゼミナール..... 37

⑤ 鬼 碎.....	20
⑥ 裏鬼 碎.....	22
⑦ 大 逆.....	24
アメリカの標的.....	26
稲富流巻物に見る標的.....	27
虎倒流初傳中極意急所図.....	34



目次

ナイフ・ピストル

ファイティング

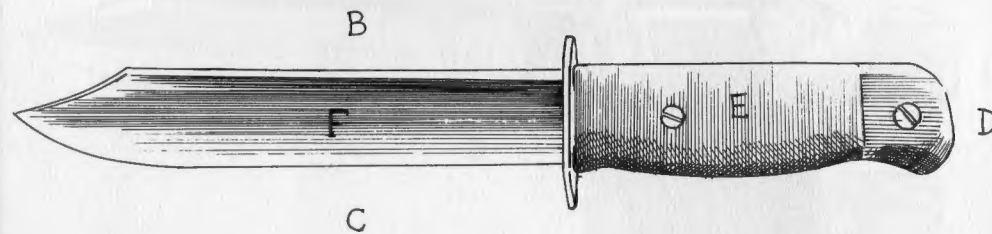
ナイフ術とピストル術.....	1
-----------------	---

第1章 ナイフ術・ピストル術を 学びやすくするために..... 9

関節技の名称.....	12
① 表 逆.....	12
② 裏 逆.....	14
③ 本 逆.....	16
④ 竹 折.....	18



Nの投げと突きの要点	143
三心射ち①	146
三心射ち②	147
三心斜め射ち	148
上より下へ手裏剣投げ	149
銃盤射ち型①	150
銃盤射ち型②	151
四方射ち型	152
抜き打ち型四方射ち	153
体変術型	154
ピストルの打ち型その変化	157
ピストル捌き型	158
捌き型変体	161
捨身技変体	176



第4章 ピストル術実技

133

第3章 ナイフ術実技

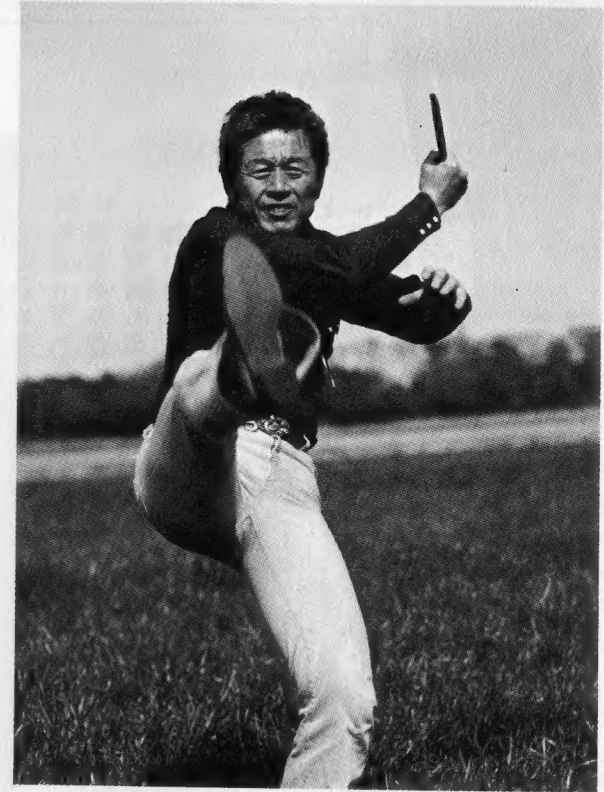
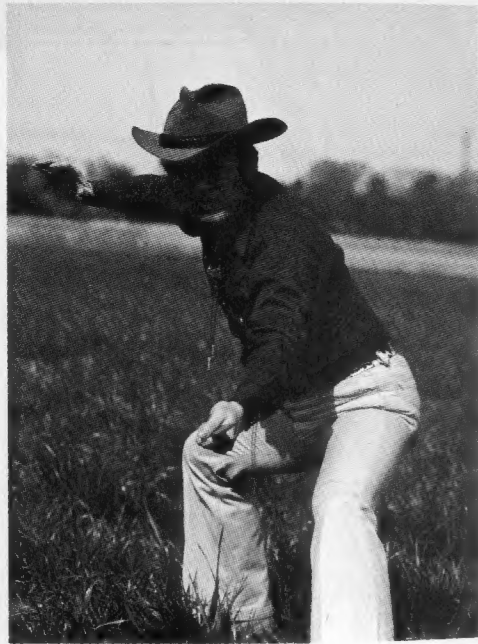
55

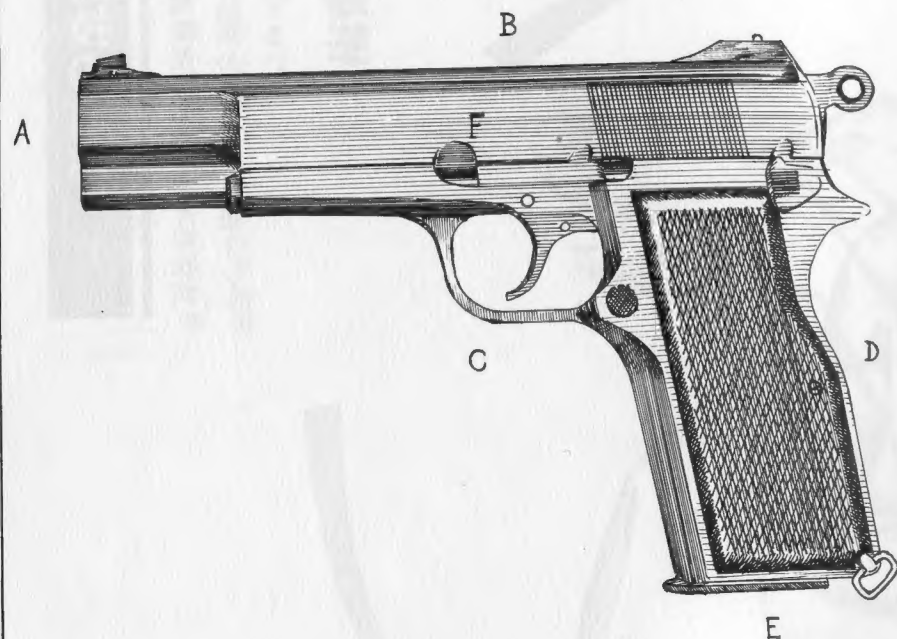
ルールを守る	54
--------	----

フォームの構え	56
ナイフアクション	59
三心の突き	59
体変術	63
捌きX型	63
捌き潜り型	65
後方捌き型X型	66
ナイフ捌き	72
体変払い技	76
両手払い	86

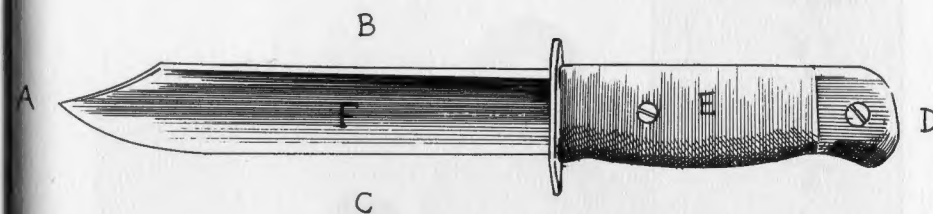
第1章

ナイフ術を学びやすくするために
ピストル術





P ↓ ピストル
I ↓ 自分または捕手
Y ↓ 相手または受手
Y ↓ 受手が複数の場合の一
人
Y ↓ 受手が複数の場合のも
う一人
これだけは頭に入れて下さ
い。実技に入るときに、この
記号が大切になります。



N ↓ ナイフ
ナイフ術・ピストル術を学
びやすくするために、ナイフ
のポジション、ピストルのポ
ジションをアルファベットで
示しました。まずよく、その
部位を覚えて下さい。
次に、自分とか、捕手、相
手方とか受手という説明も簡
略にするために記号を用いま
した。

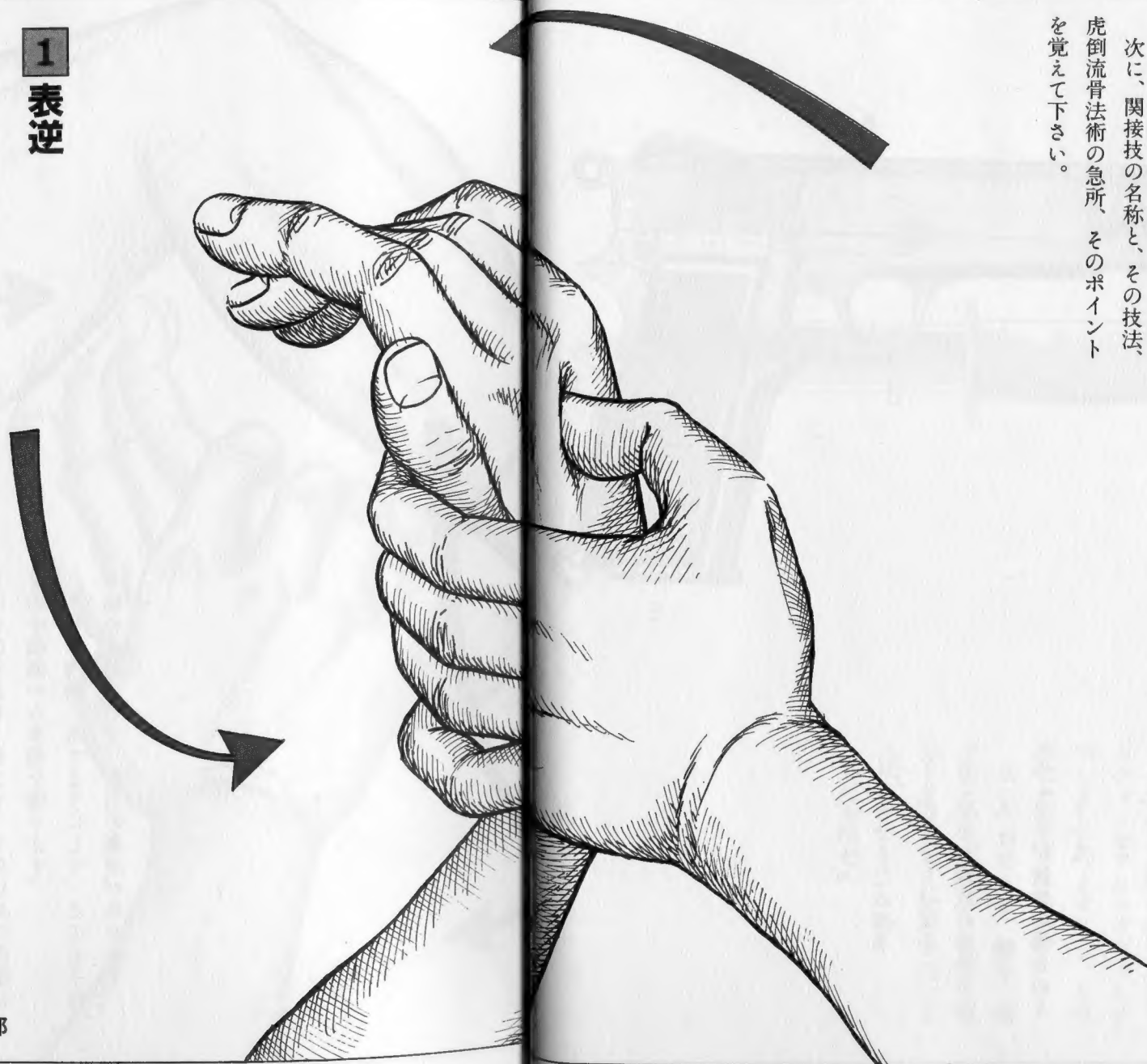
関節技の名称

次に、関節技の名称と、その技法、虎倒流骨法術の急所、そのポイントを覚えて下さい。

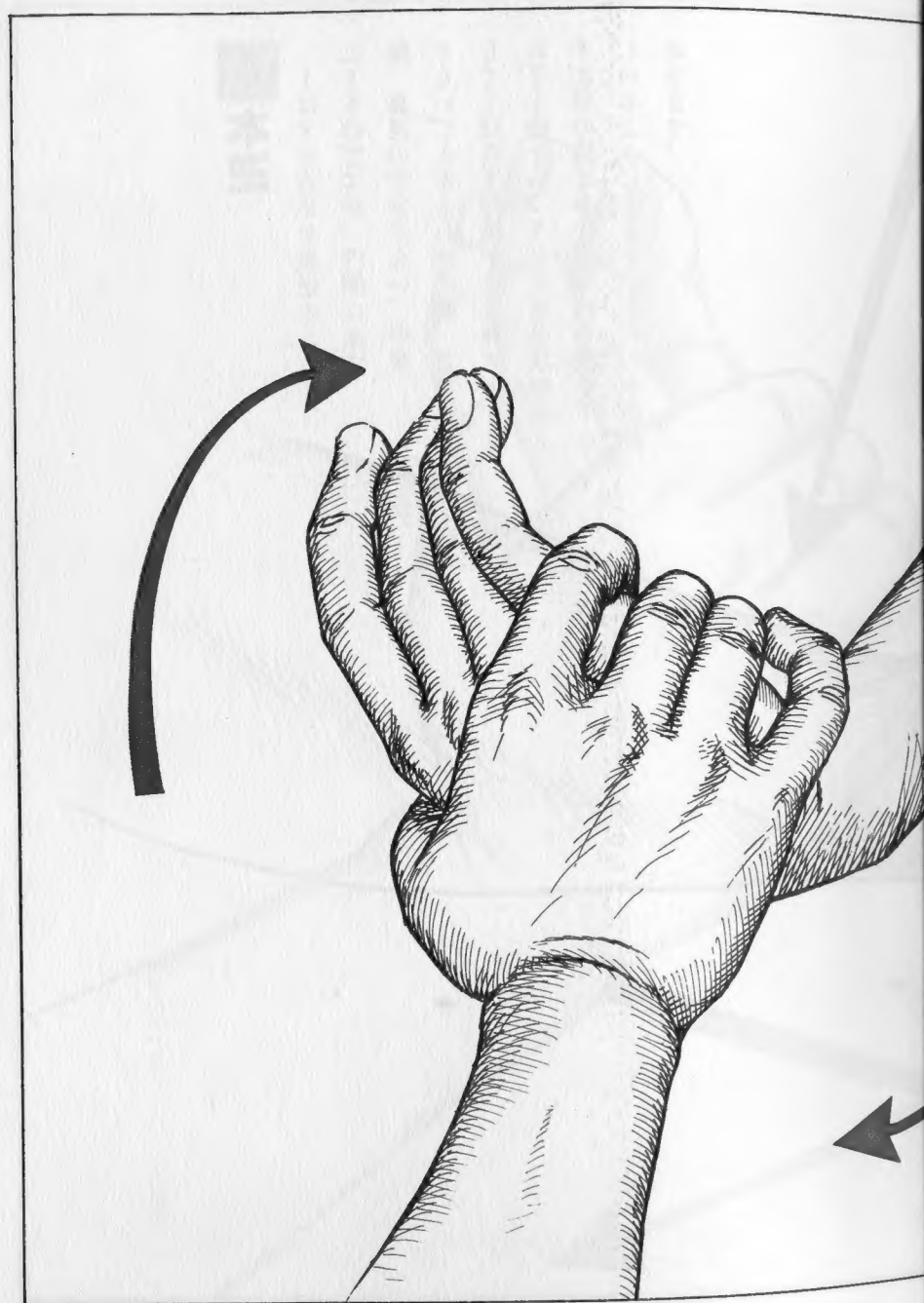
1 表逆

IはYの右手甲に、Iの左手拇指を当て、ほかの四指にてYの右手掌側を握り、Yの手を外に返すように捕ります。

左右の表逆があります。



イラスト・小沢謙次郎

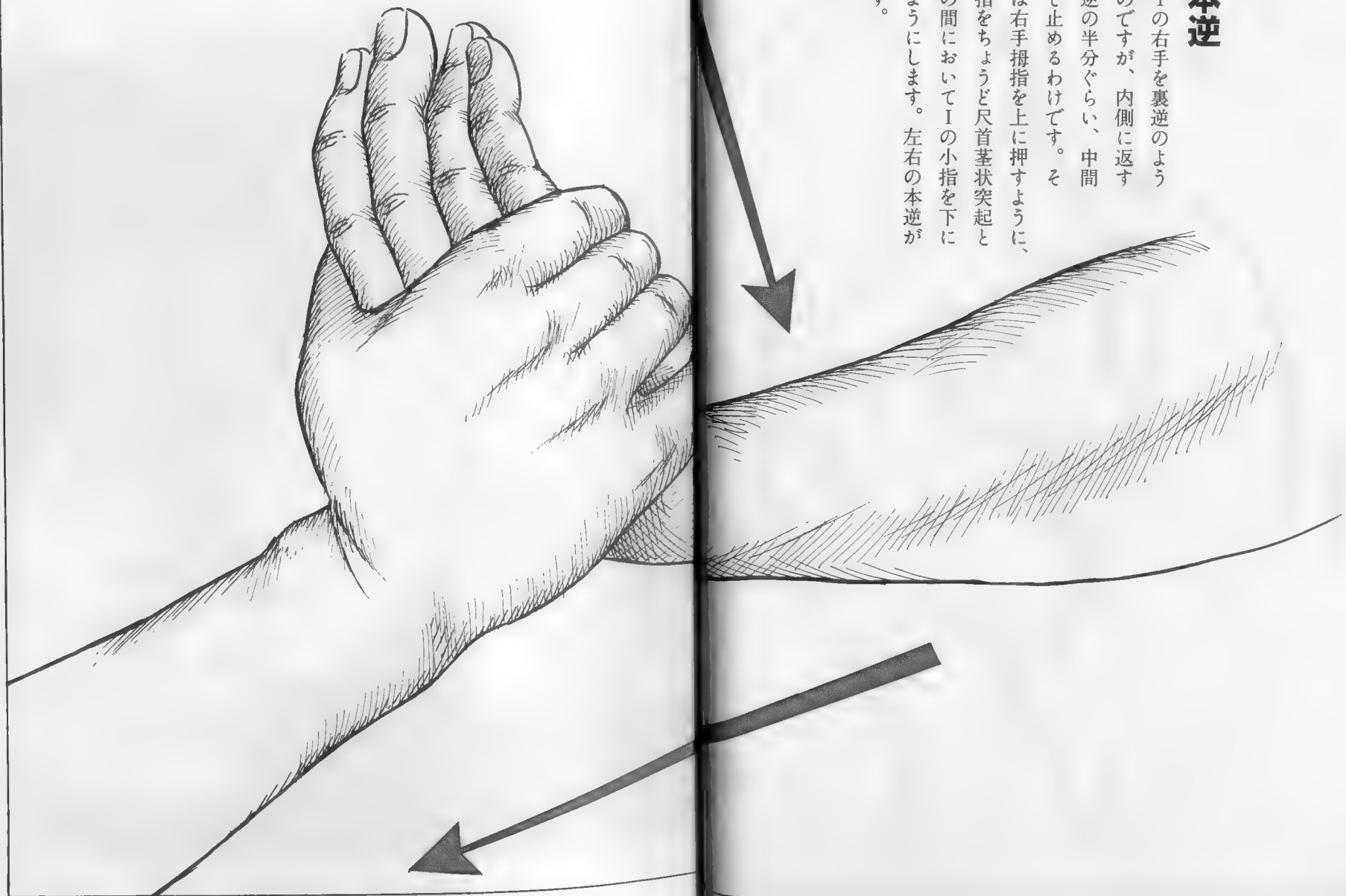


2 裏逆

IはYの右手を、Yの右手甲の上より握ります。Iの右手拇指は、Yの拇指と第二指の間、合谷または裏逆ともいう急所を当てることにもなります。そして、Iのほかの四指はYの小指側から掌部を握ります。そして内側に返すようにして、その右手首を極めるわけです。左右の裏逆があります。

3 本逆

IはYの右手を裏逆のようにとるのですが、内側に返す際、裏逆の半分ぐらい、中間ぐらいで止めるわけです。そしてIは右手拇指を上を押すように、右手小指をちょうど尺首茎状突起と手根骨の間においてIの小指を下にしめるようにします。左右の本逆があります。





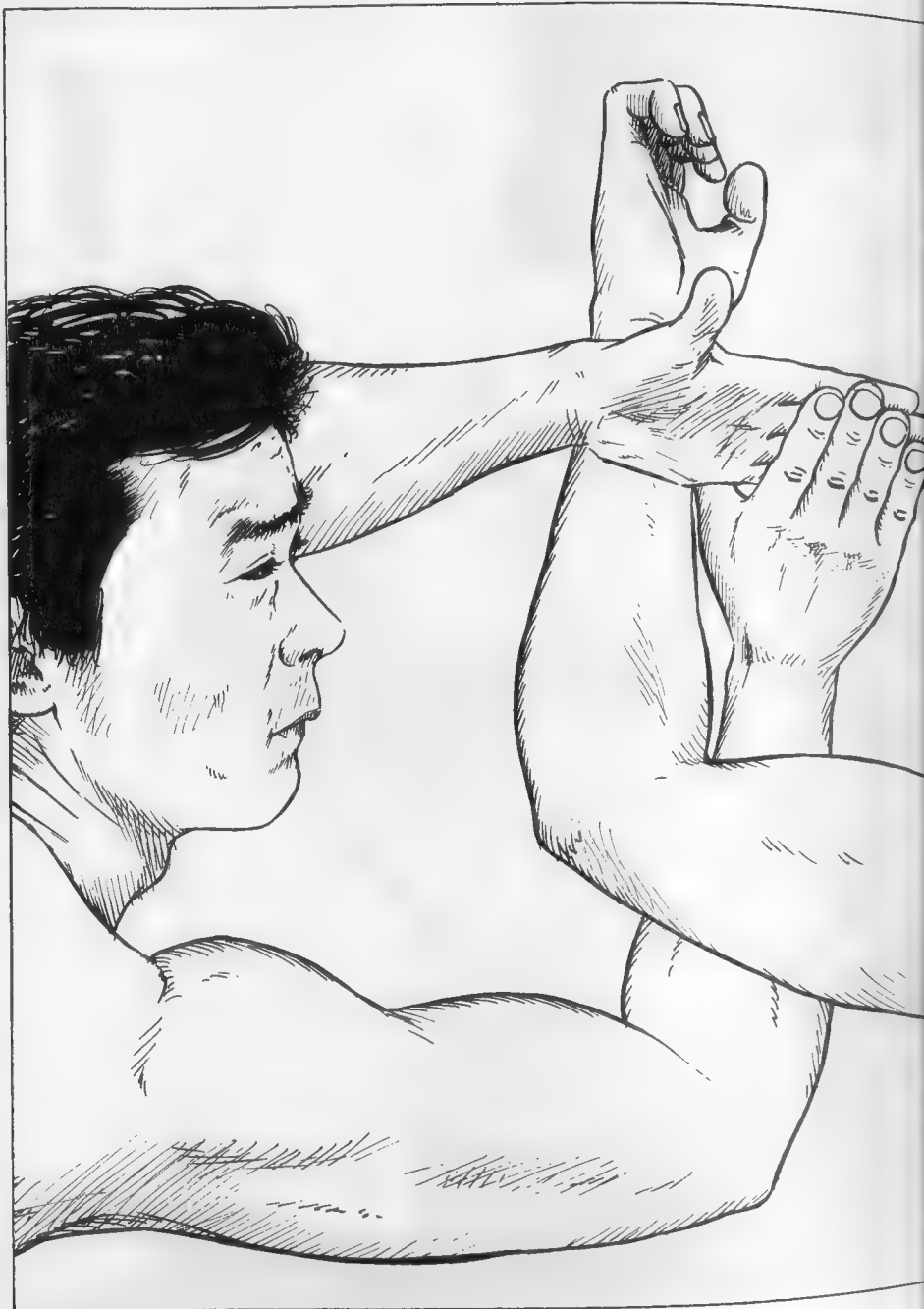
4 竹折

これは、表逆、裏逆から変化することがあります。Yの腕関節を掌側、または甲側から捕って、腕関節の逆を捕るのです。



5 鬼砕

図のように、Y
の右腕を曲げて捕
り、外に折り曲げ
て極めます。(左
右)



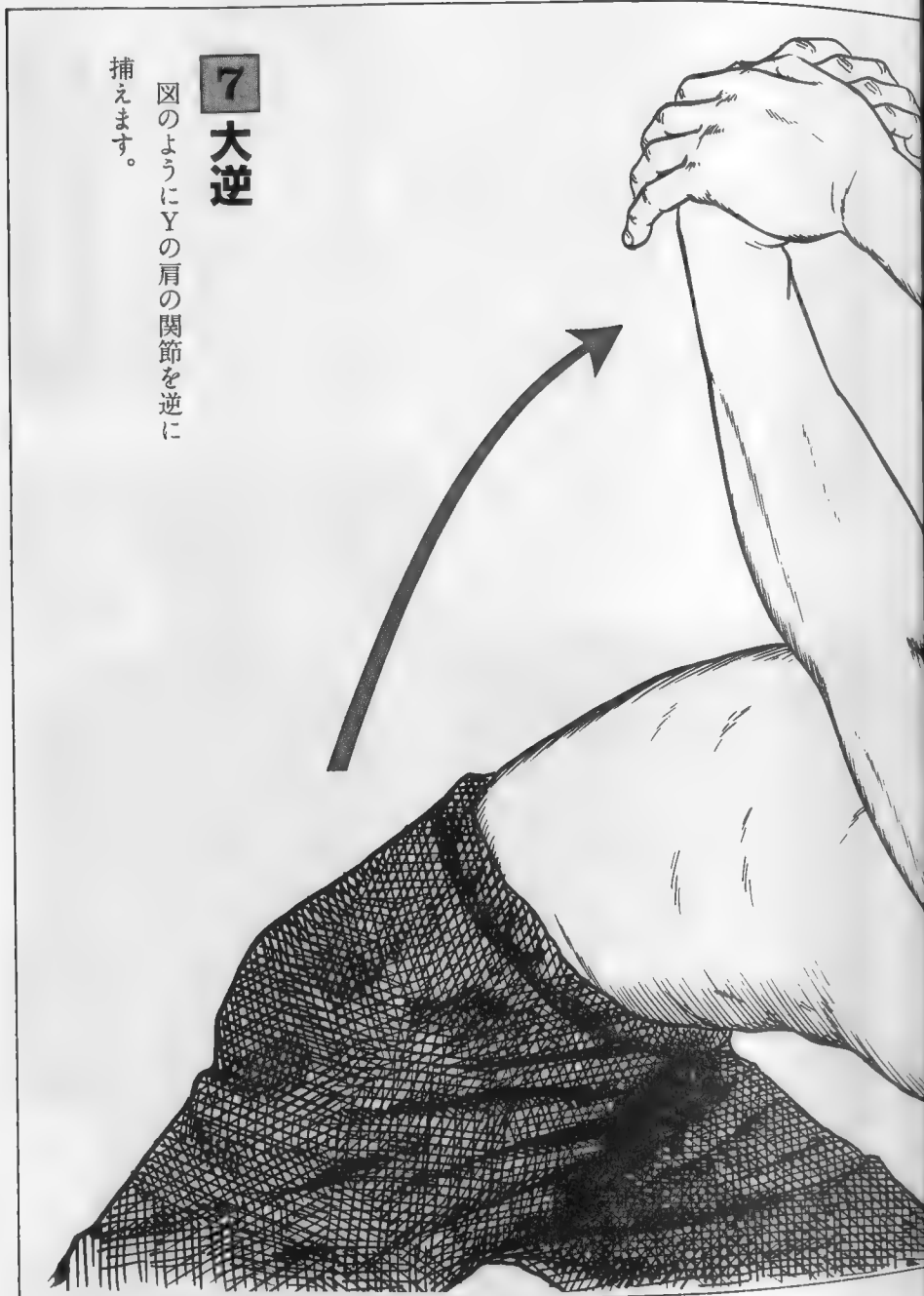
6 裏鬼砕

図のようにIはYの
右腕の上より、Iの右
手を越し、Yの右腕を
裏鬼砕型に捕ります。
(左右)

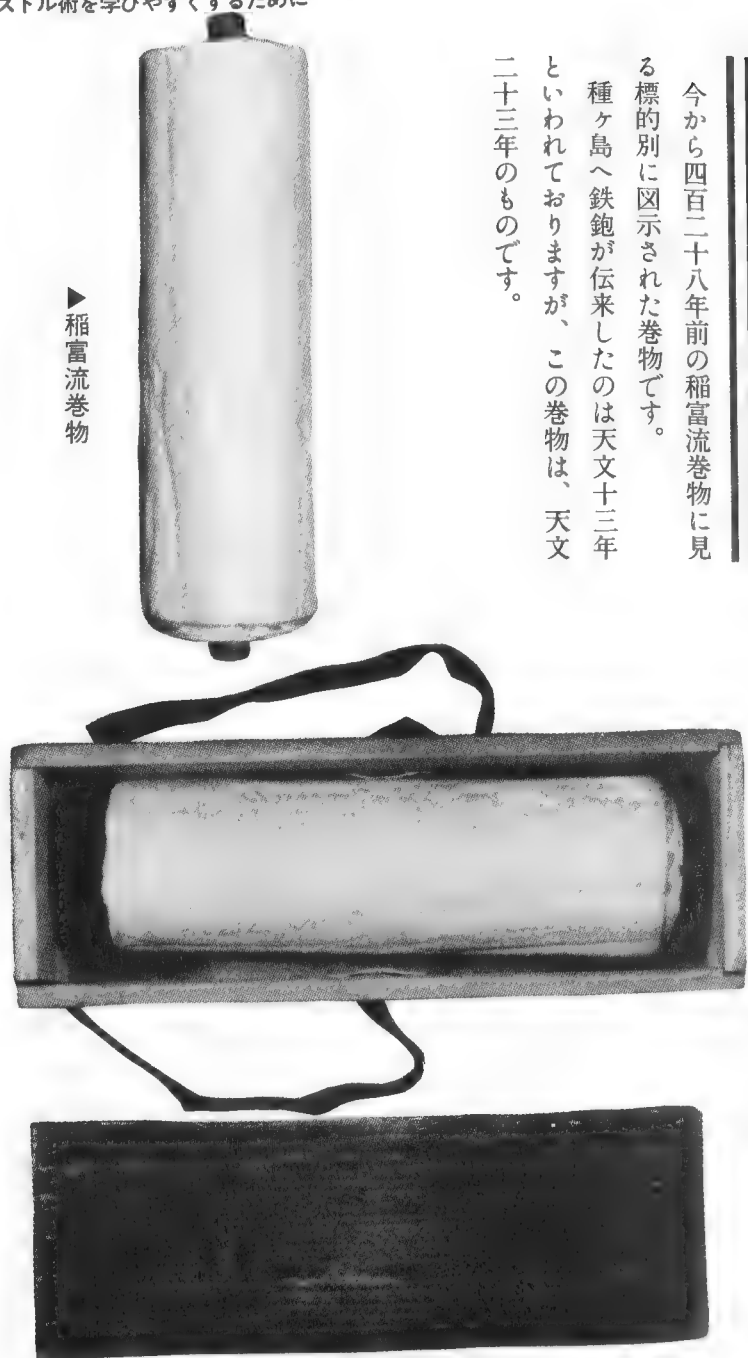


7 大逆

図のようにYの肩の関節を逆に捕えます。



▶ 稲富流巻物

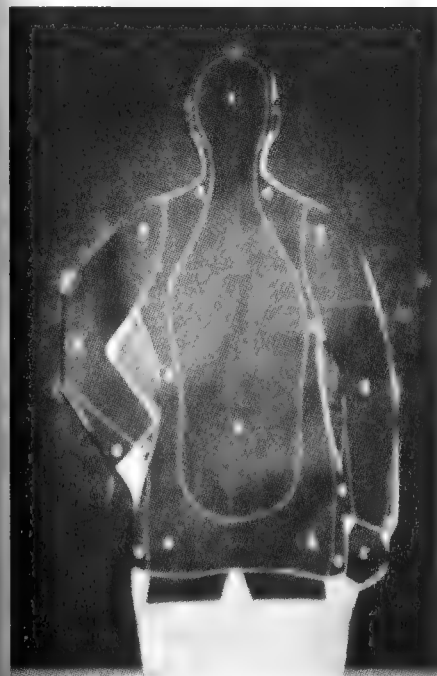


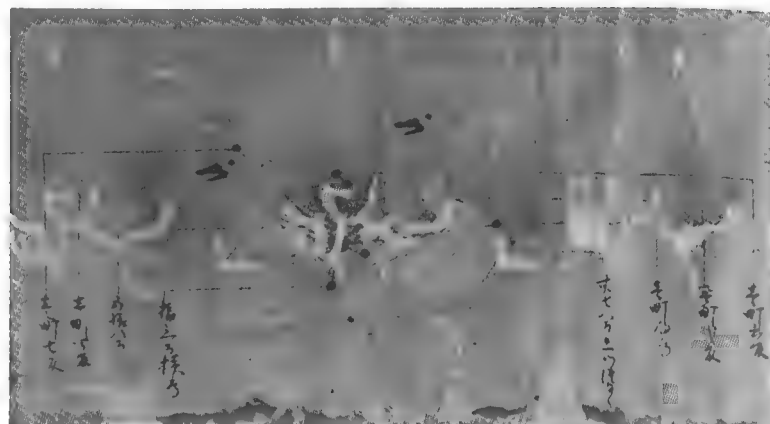
稲富流巻物に見る標的

今から四百二十八年前の稲富流巻物に見る標的別に図示された巻物です。
種ヶ島へ鉄砲が伝来したのは天文十三年といわれておりますが、この巻物は、天文二十三年のものです。

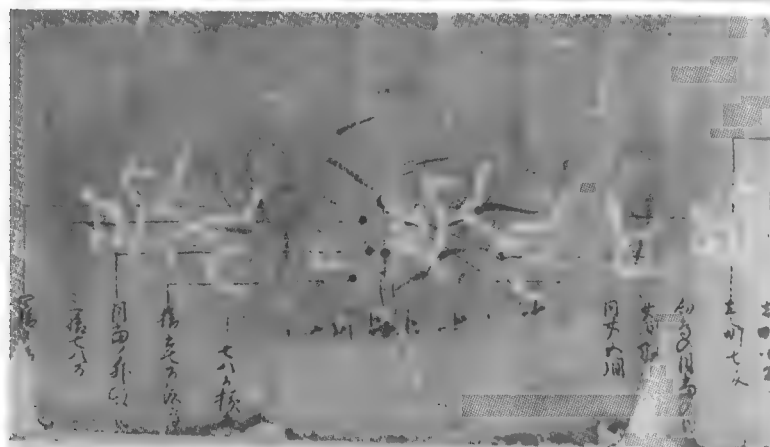
古い標的は（写真左）、人間の急所に順じていないということで、ターゲットが変えられました。時代に即して、古い物から新しい物へと変化させるアメリカの合理的な一面を見ることが出来ます。
アメリカの警察では、三年ぐらい前から、標的が左の写真のようなものに変えられました。
現在のアメリカでは、ターゲットという、このような標的が出来ます。

アメリカの標的

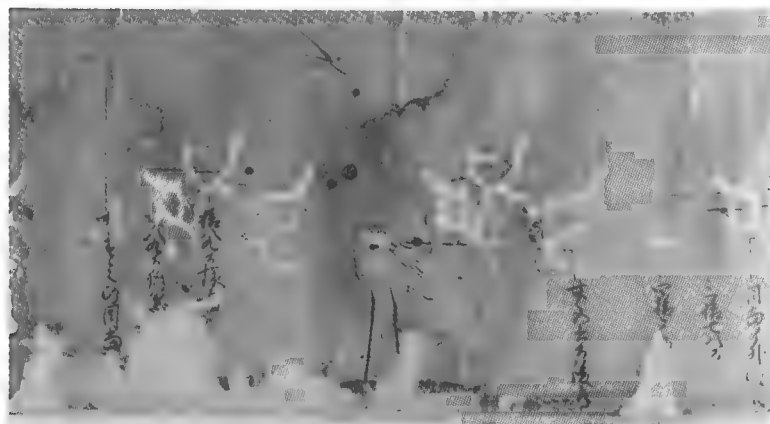




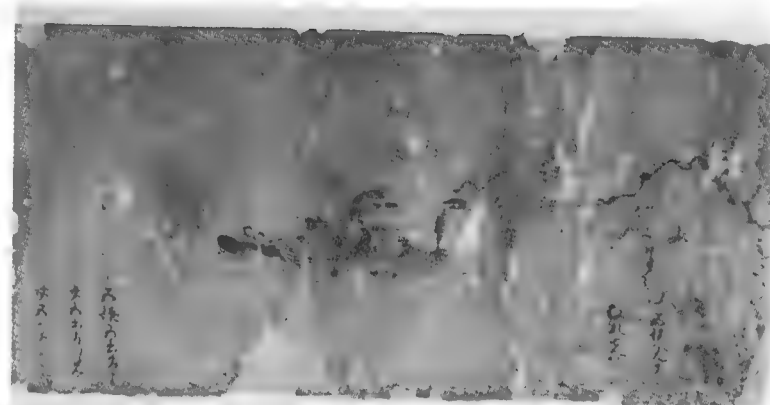
〈4〉



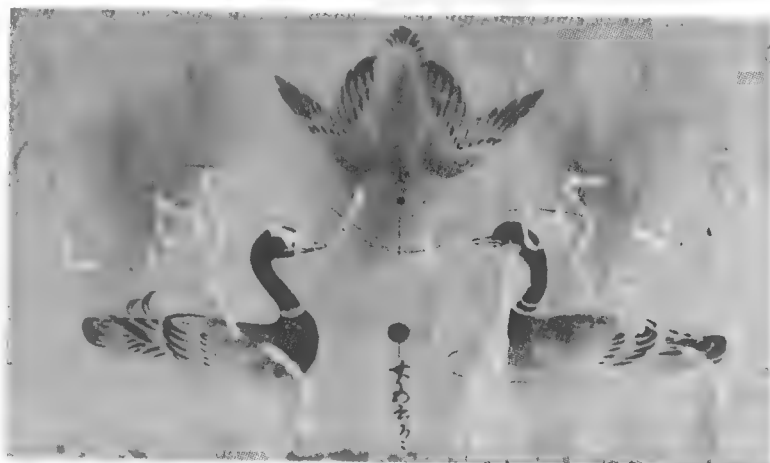
〈5〉



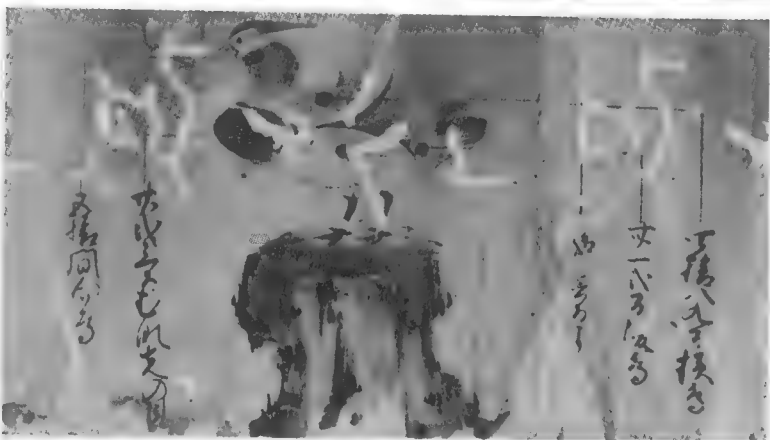
〈6〉



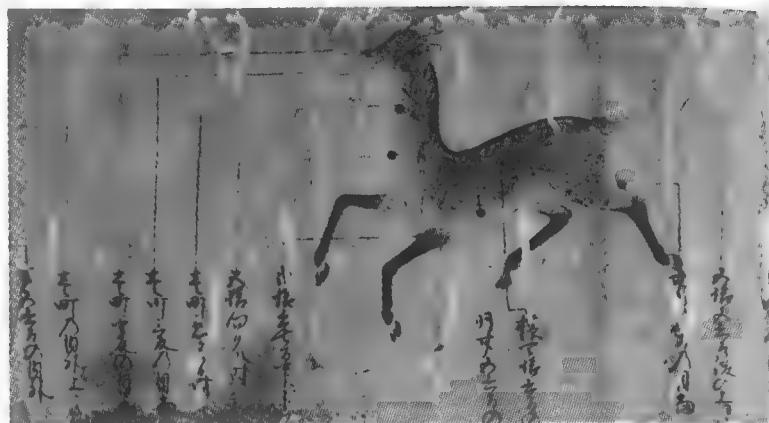
〈1〉



〈2〉



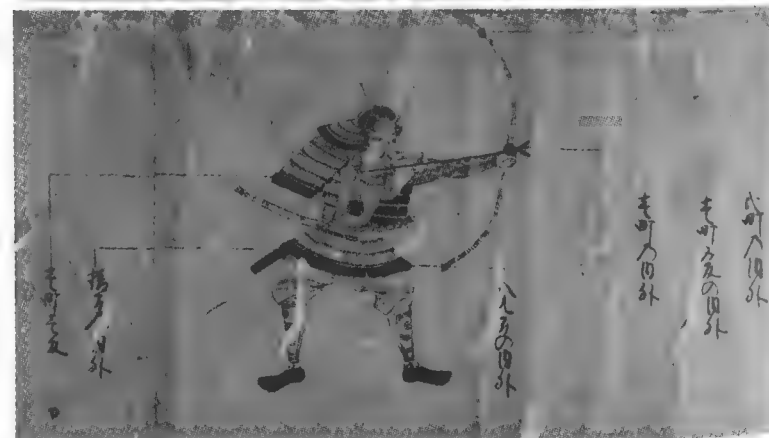
〈3〉



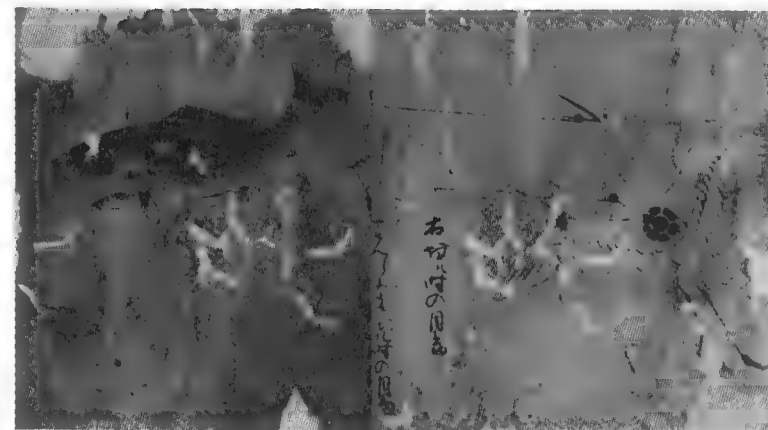
10



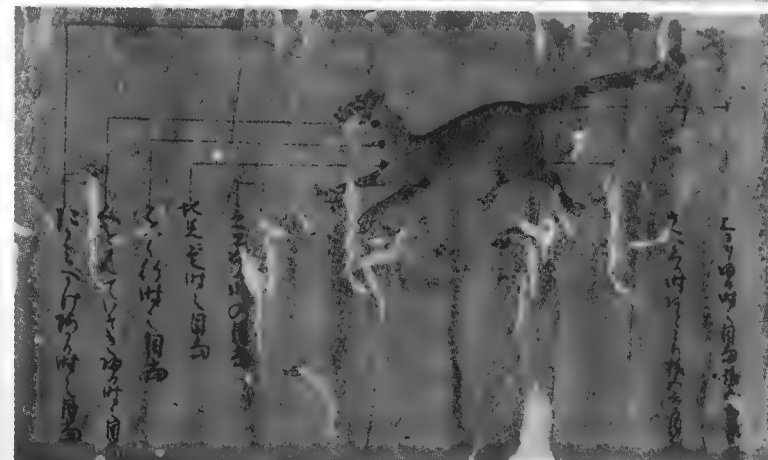
11



12



7

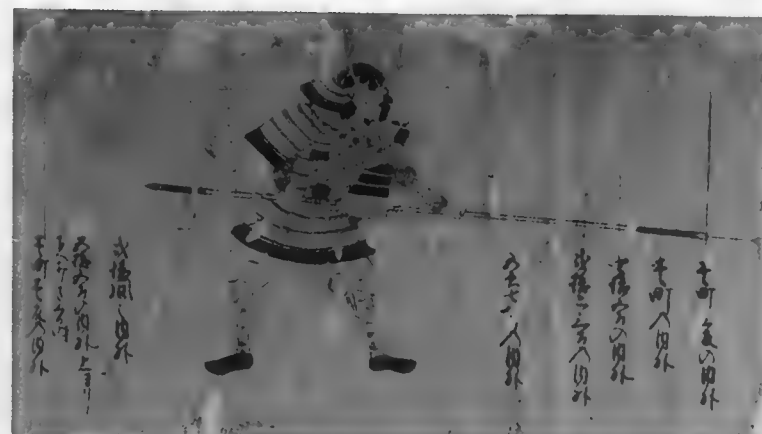


8



9

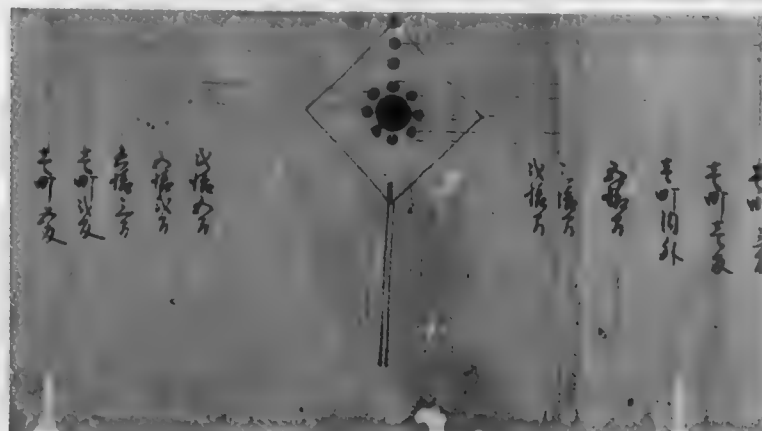
13



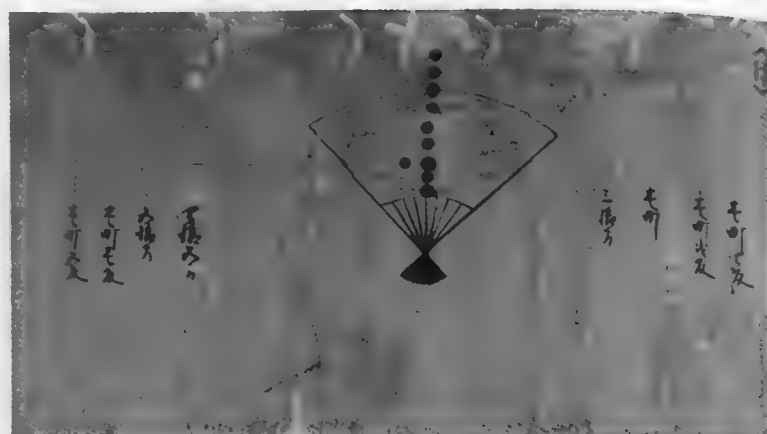
14



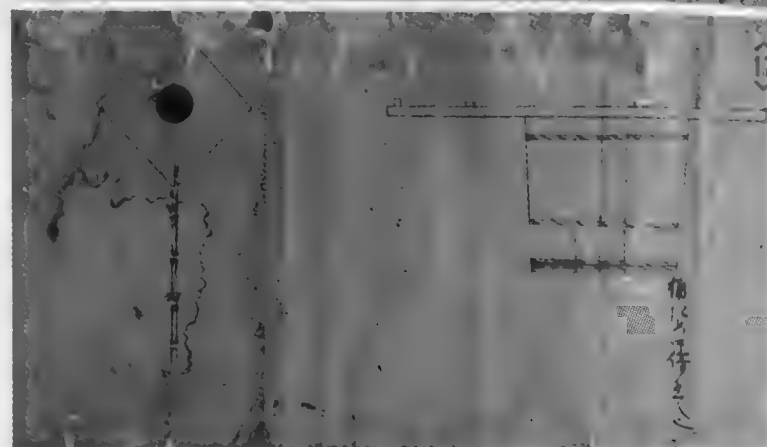
15



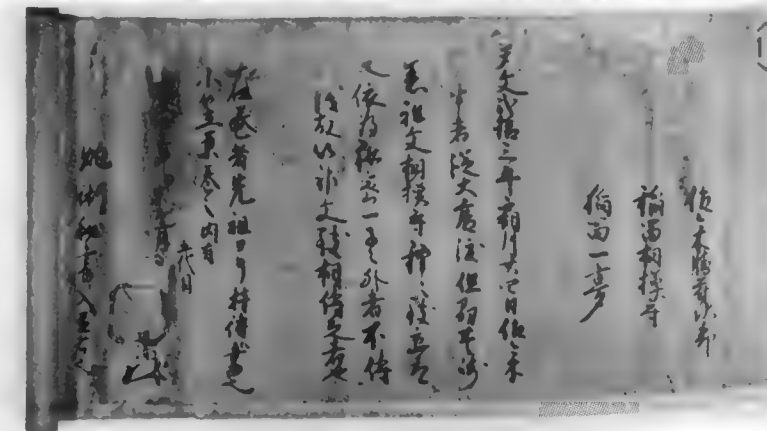
16



17



18





大 門 朝 霞 星 門 鬼 穴 禁 壺 腰 門 天 戸 雨 中 人 葉 八 部 面 骨 独 輪 五 輪 五 摧 右 摧

肩関節上下の間
あごの処
脇下
乳上の処
胸骨
腰骨の中
腰骨凹の処、痛苦七日間とす
眼の上下、鼻
首のリンパ腺アゴの下横手全部云う
鼻の真下
両袖兎戸と云う両耳のこと
顔面、ヒタエの処
出骨の処、咽喉
月影、ヘソの右横
稲妻 ヘソの左横
左谷、足の内側太モモの処
右谷、右側

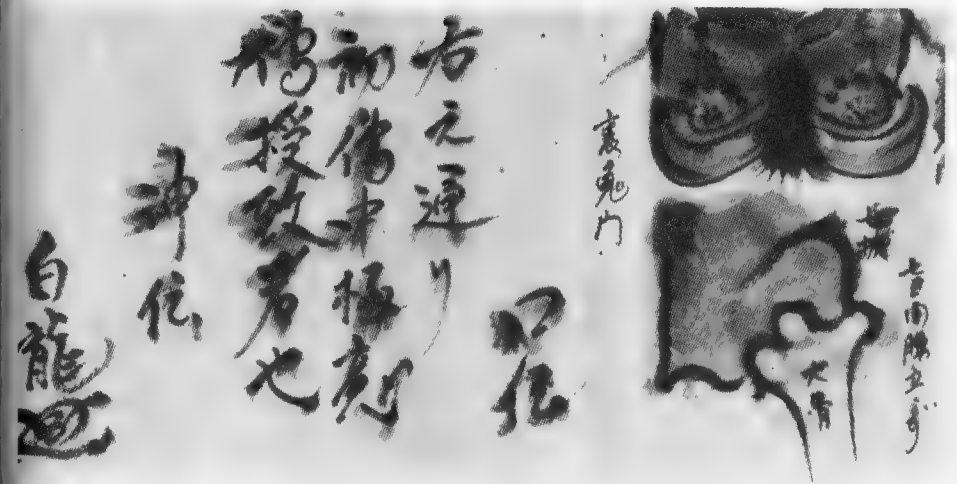


裏鬼門 両乳の下、脇の下、四五肋骨間
柳風 喉笛
乱菊 又は霞、コメカミの処
飛龍乱 眼球
獅子乱 水月
虎勢 又は鈴、辜丸
夕霞 耳後凹の処
露霞 耳直下、アゴの処
龍門 肩骨凹の処
十字路 肩骨前方
弱骨または弱筋 腕中関節上下の間

★骨法禁穴名称

これは虎倒流骨法術の中極意の急所図である。

虎倒流初傳中極意急所図



雨 齒 強 五 裏 仏 指 健 脇 心 天 左 右 星 村 松 扼
戸 止 経 輪 鬼 滅 壺 骨 壺 中 頭 陰 陰 沢 雨 風

龍下、足コブラ
一時三当、ノド凹の左右
ノド凹真下
久関節凹の処
右眼の下
左眼の下
頭のヲドリコ処、凹の点
胸部正面
腕脇下凹の処
天骨四ヶ所
拇指の股の処
両脇肋骨下三枚四ヶ所
両乳真下
ヘソ中央上五ヶ所
足五指の上
耳タブ一寸下
アゴ両横真下

第2章

マイアミキャンプのゼミナール



▲裏砕き



▲雨戸捕り



▲引き落とし捕り

海兵隊員の訓練

マイアミ・キャンプのゼミナールには、海兵隊員の、ジャック・ホーバン君も参加していました。私は海兵隊の訓練に興味があったものですから、早速、彼に質問してみました。

「ジャック君、海兵隊では、ナイフ術の訓練をしますか？」

「はい、します。まあ一寸!!」

「そう、じゃあ、射撃の方は？」

「海兵隊員は、二週間で、二百時間の訓練をします。それから海兵隊員は、コックでも、女性でも、射撃の訓練をさせられます。そして、毎年、一週間の射撃訓練をしないと隊員として認められません。そのほか格闘術・障碍コース・ロ

ープ渡り・モンキーブリッジ・食べものが何もない所で生きる方法など沢山訓練があります」

という答が返ってきました。そして、新兵などの士気を鼓舞するために大声を張り上げさせて前進したりするともいっておりました。

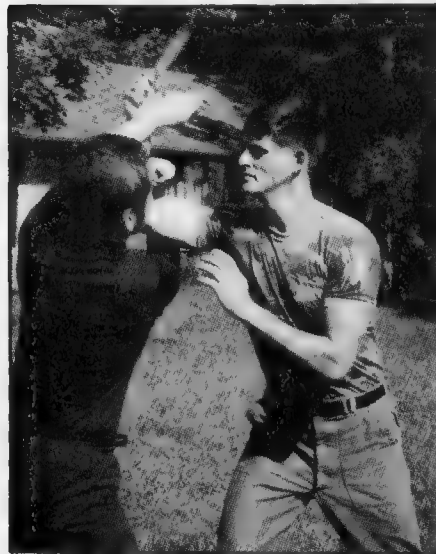
精神力の必要性を感じているのは何も日本人だけの専売特許ではないということです。



▲腕捕り



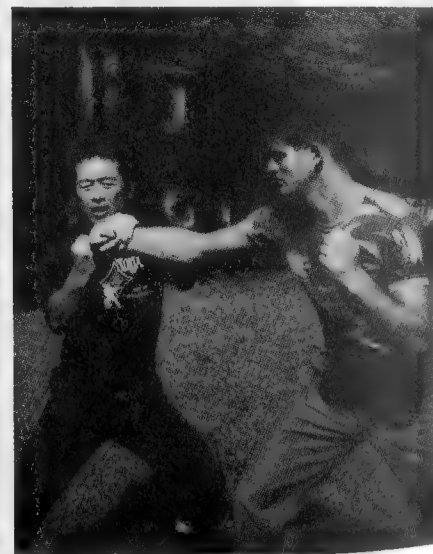
③ Yを引き落とし、頭捕り、首を極める。



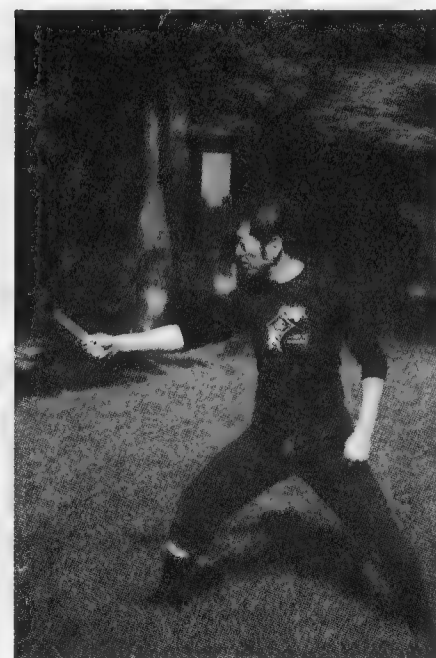
④ Yが上段より斬りかかるのを、鬼砕き型にとる。YはNを落とす。



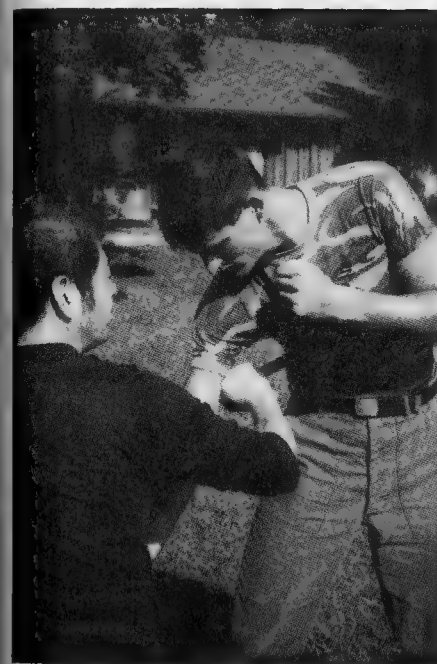
Y右突きに対する別法① Iは左に開き、その右腕をNに当て、腕折りに極める。



② Yの右手甲を突き、Nを飛ばす。

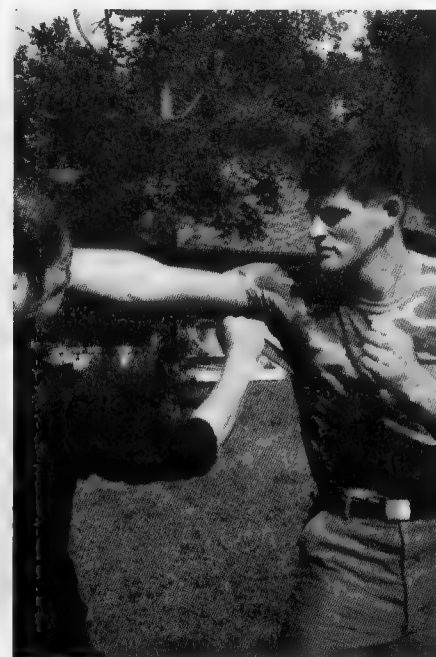


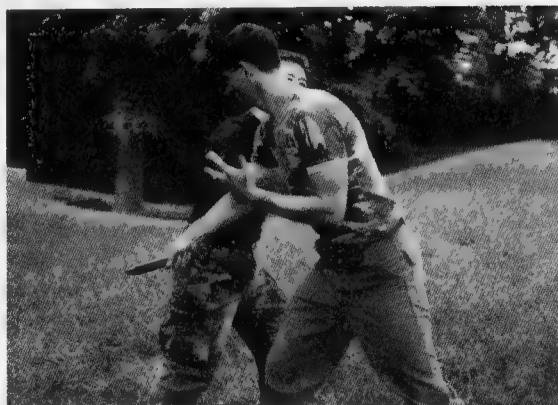
① Iは捕り
Yは受けとする
Nはナイフ



② Yは、NでIの右を突く。IはYの腕を受けてつかみ、NにてYの右脇に当てる。

③ IはYの右腕を押し下げることにより、Nは自然にその腕に押されYの右脇に極まる。





① YがNを持ってIの右を突く。Iは左前方に体を変わす。



② IはYの右腕を、上よりひっかけ、Yの後方に廻り、左腕をかかえて捕り――



③ I、Y共に後方に同じく倒れ、引き込み、Iの右膝にて、Yの背骨を極めると共に、IはNでYの右背部を極める。



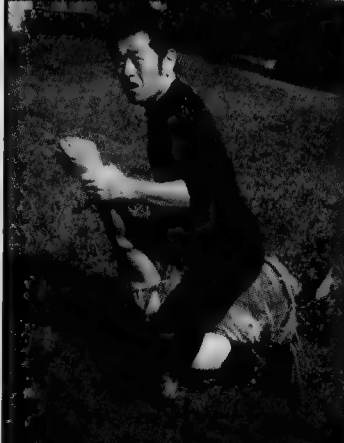
① Yの右突きを巖石に捕り、さらに左手を捕る。



② 巖石落としに極め倒し、Iの左手掌にて、その人中を極める。



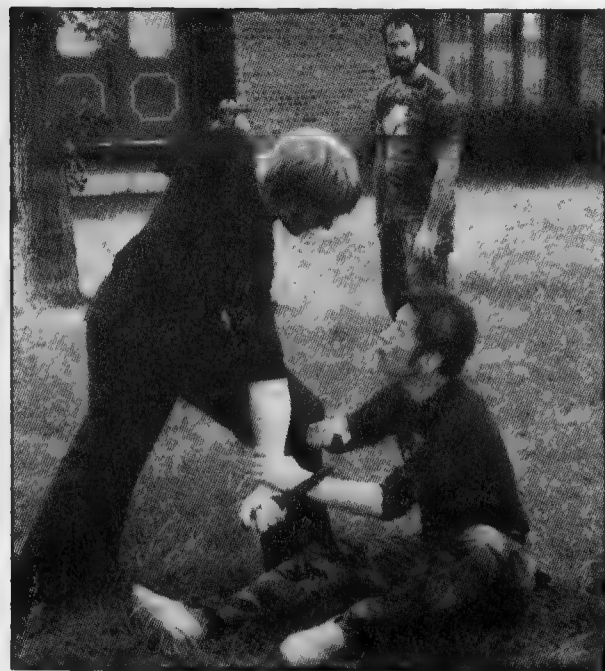
③ Yの右腕を折りに出て――



④ IはYの右腕大逆と頭捕りに極める。



①または、立ち流れよりYの左手を捕り、



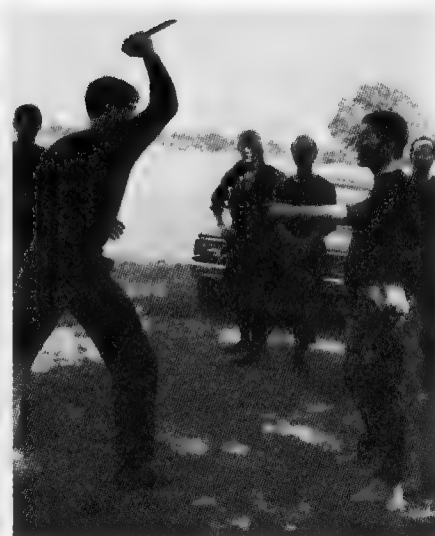
②Iは、Yの右手を左手にて逆に捕り、右手に持ったNにて、Yの右膝裏捕りで膝を極めて、Iは左手でYの右手表逆型に左方に引き倒す。Yは横転する。すぐNにて極める。



③Yの右膝をIはNにて引くと一、



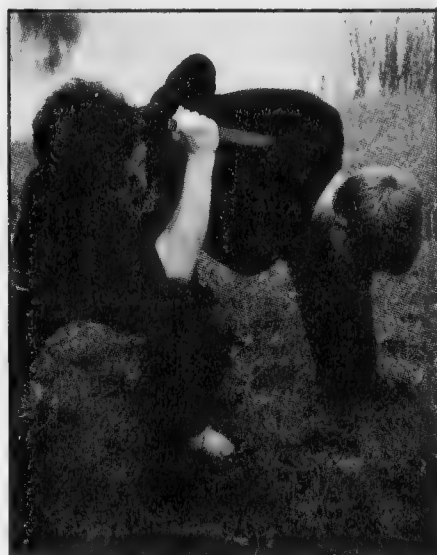
④Yは前方に転倒する。



①Yが上段より斬り下ろしてくる。



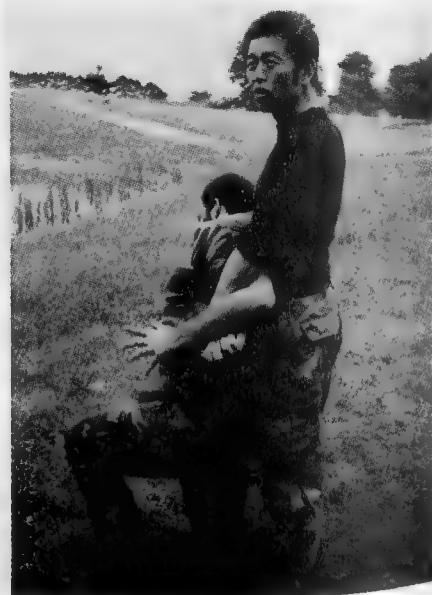
②I立て流れに、Yの右側方に入り込み、IはNにてYの右膝裏に当て一、



③ I は Y の両腕を抱え、締めにゆき、I は右 N にて極める。



① Y の左腕を、I の大腕にて後ろより抱え込みながら、Y の右腕を捕り、



② I の体にて極め落とし、



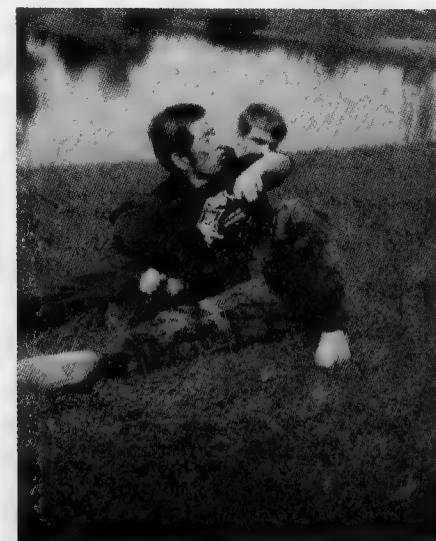
③ Y の上体を一転させ、立ち上がりながら右手の N にて、



④ Y の体にて極める。

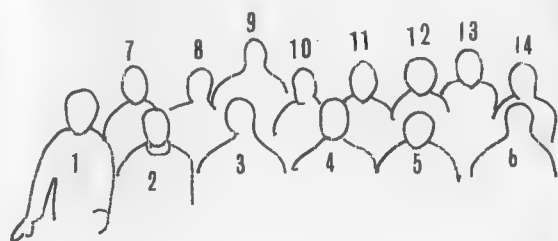


① Y の膝極めより——、



② Y が前に倒れてくるのを、I は左肘にて後転しながら当て込み、

- | | |
|------------------|-------------------|
| ① Larry Beaver | ⑧ Dan Johnson |
| ② TARO YOSHIKAWA | ⑨ Charles Daniel |
| ③ Stephen Hayes | ⑩ Thomas Franzen |
| ④ Hatsumi sensei | ⑪ Roger Stebelton |
| ⑤ Bud Malmstrom | ⑫ Mikael Svens |
| ⑥ Jack Hoban | ⑬ Roger Robins |
| ⑦ John Tatman | ⑭ Kelly Hill |



①はYを前倒しに捕るなり、
YのNを捕り、おさえてこれ
から料理の構え。



オハイオ・デイトンの武神館一門の弟子達と



③ ①は左膝極めの支点より体を変
えて、Yの体を側方から後ろに



④倒し、①の右拳にて、Yを雨戸
左禁、右禁と極める。



①ナイフを体に5本差しに帯びた
インディアン君が、Nにて斬り
かかる。①は左肩にてYの右上
腕をうけとめ入身。



②Yの後方に返り、①はYの右扼
から後当てに①の左膝にて当てて
捕り、

ナイフ術のトレーニングのあとで、ヘイズ君、ラリー君、バード君、チャーリー君にナイフ術のテイチングに対して感じたことを率直に話してほしいと、インタビューをしました。

ヘイズ「私は今まで教わったこともない技を、先生によって知りました。先生が教えて下さった技は、素晴らしいナイフ術です」

彼は私の弟子で、十数年のキャリアを持っています。

初見「そうだろう。僕はね、どんな環境にも応じられるナイフ術、つまり、アクションがピーンとひらめいて、すぐアドリブができる……、それも考えることはく自然にできる技、つまり、ナイフ術とか、短刀術とか、十手術、鉄扇術などという型的なものではないもの。武器の種類、型などを考えないこと、無限なものを得ることが大切だと思っているんだ。バード君、君はどう思った？」

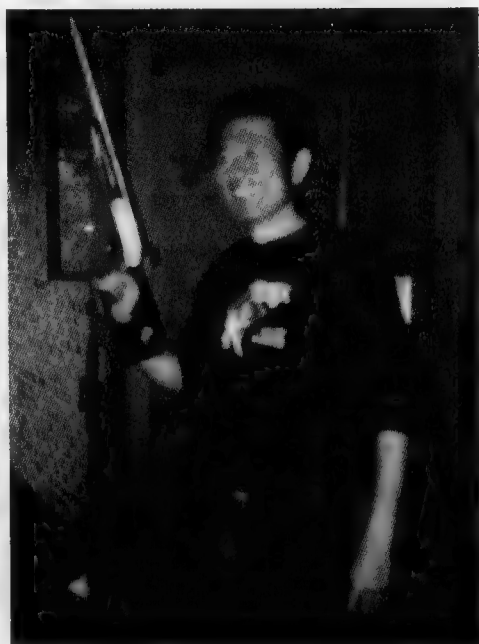
バード「僕は今まで、間合いやタイミングがわかっている、できていると思ってたんです。けれど、実際にはわかってなかったと思います。今日、先生に

た時には空間を攻めているようにかわされてしまつてびっくりします。先生はどこにでもアタックできるように、何ていったらよいか……、つまり、私が先生を突いた時、もう何かに全部包まれて身動きできないでいるようで、オールポイントといった感じでした。まるで散弾銃で射たれるという感じです。

先生の技は簡単です。しかしとてもむずかしく、私にはとうていできません」

初見「武芸というものは、いつもいうように『ノーパワー』『ノーガッツ』『パワーやガッツが自分を不利にしようんだ。原子力みたいな力』で、自分で作り出したのに自滅してしまう。わかるかな？」

リラックス、そしてハッピーな感覚。これが武芸なんだよ。みんなは、マーシャル・アーチスト、芸術家として練習してもらいたいもんだね。ピカソやマチス以上の芸術家に匹敵するマーシャル・アーチストになってもいいね。力を入れて稽古をするこれは労働者諸君にまかせればいい……」



教わって、やっとわかったような気がするけど、やってみて、できるかどうか心配です(笑い)」

初見「ラリー君は？」

ラリー「ナイフの受けに対して、いままでのテクネーでは用意していないとできませんでした。しかし、先生に教えていただいたから、ハエをはらう気になって、自然に技が出て、ナイフを避けられるようになりました」。

レスリングとか、力でくる格闘技に対しても、力にかかわりなく避けられる自信ができました」

初見「よかったね。だけど、ハエをつかむとなると宮本武蔵ぐらいにならないとね(笑い)。さあ、そこで、インディアン研究家のチャーリー君は？」

チャーリー「まず、ラリーと同じように、ほかのテクニクに対して、落ち着きができました。急がず、間合いが見えるようになりました」。

ナイフを見るとカッとなります。だから、なるべくナイフを見ないように考え、行動するという動きはいいと思います。先生を攻めて行くと、気がつい



◀▼このナイフは、握り手を強く握ると、先端のナイフが開くようになっている。



◀水中の角についたナイフ



◀右手に持った大ナイフは、投げた時によくささるようにつくられている。

マイアミキャンプでの彼等の「レクシオン」を前にして

第3章 ナイフ術実技



ルールを守る!!

ナイフ術、ガン術の練習に入る前に、これだけは必ず守って下さい。

ナイフは絶対に刃物の本物は使わないこと。本物のナイフは非常に危険である。したがって、写真のような、木で作ったナイフ(本刀)を用いること。または、ゴムでできているナイフを用いてもよい。

ガン術に用いるピストルも、モデル・ガン(プラスチック製または木製のもの)を使用すること。

危険性のないものを用いて稽古すること。



▲下段の構え



▲刃下向き



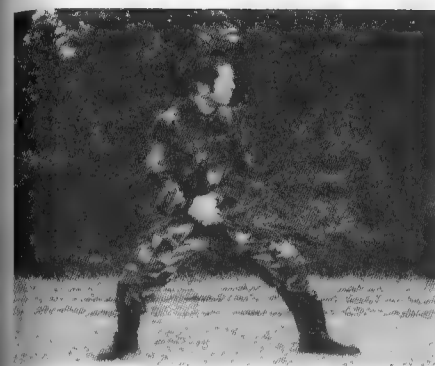
▲影の構え



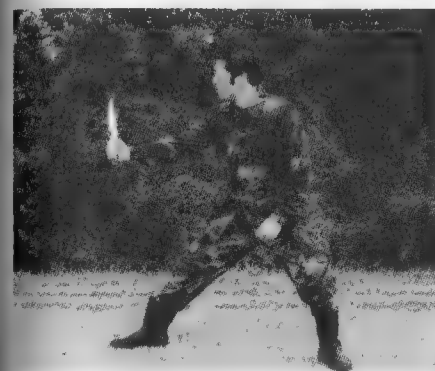
▲逆天地の構え(投げの構え)



▲刃上向き



▲諸手の構え



▲天地の構え



▲正眼の構え



▲平の構え(N横刃)



▲左脇の構えの構え(投げの構え)

フォーム構え

ナイフ術でもガン術でもそうですが、小さな武器を用いる時は、手に何も持っていないという無刀型の心構えが大事です。
したがって、体術をよくよく訓練することです。



①影の構え。

三心の突き

ナイフアクション



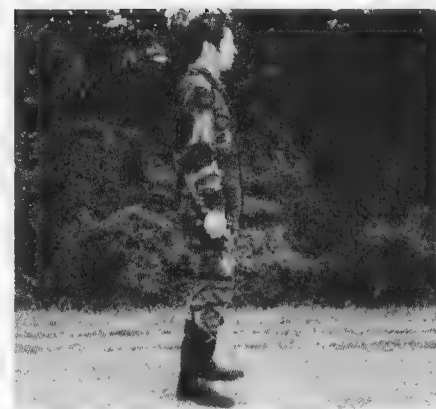
③左右の膝の屈伸軽妙なる柔軟性を生かして、



②左足一步前後屈しながら、影のN A 下向けに、



▲八字の構え



▲自然の影



▲逆八字の構え



▲十文字の構え



②右N右上に上げながら



①八字の構えより



④N右斜め内ちにはず切り



③右手首廻しながら、左足
一歩前進させ、



⑤右足一歩前進。



④右腕振り子の如く、同じく膝も柔軟に踊らせながら、



⑥体Nも膝も柔軟に手、体の伸びを
うながす。左右のこと。

体変術

体変術はピストルの体変術型と説明を加えております。分類すると、前転、側転、後転、空転、四方天地飛び、立流れ、横流れ、巴返し等があります。これは攻撃進走受身型とも一如であります。このような体変術に次いで、次に説明する捌き型や潜り型等も研究して下さい。

三▼捌きX型



▶ 八字の構えとは限りません。何の構えからでもよろしい。



④③よりN刃先、左上より右下へ斬り下げ。



⑤斜め上へ斬り上げ。



⑥斜め下より、斜め切り上げ。

⑨ いずれもスピード感覚で稽古するより、スローモーションで正しくこの動きを把握することが大事です。

体全体でダンスイングのように、ムービングして下さい。

▶風技と言う型。Yの攻撃を瞬時にかわす。
木の葉捌きとも言います。



三▼捌き潜り型



▲右足斜め前進潜り型の構え。
左右のこと。



▲左足斜め前進。左斜め入身型。

◀左足を右斜めに交差の構え。



◀右足を右斜後方に変化すること
により、変化十文字の構え。忍
び横歩き捌き型とも言う。



① Y N 右突き I 右 N にて、Y 内側
右小手 N 当て。



② I Y の右小手捕り。



③ I 体を後屈しながら体で左手引き、Y の雨戸を N にて極める手だけで引くと言うことより、体で Y を誘い込むと言う体変の稽古である。



▶ 平の構えより



≡ ▼ 後方捌き型 X 型



▲ Y N 右突き、I 右足右斜後方に気転による体変。右足右斜め前に気転、体変。



▲ Y N 後方より右突き来たる。I は左後方に気転による体変。左足を斜前に気転体変も有ります。

④ I は Y の右腕を受け、まわしはね上げる。



⑤ 上体落とし、右N突き込み極め。

① Y N 右突又は斬り下げ、I 外よけ。



② 再度 Y N 右突又は斬り下げ、I は内よけ。



③ Y 斬り下げ来る。I N F にて払いうけ、



④ I、NCにてYの小手を極めつつ廻し下げ、



⑤ I左手にてYの右小手捕り、



⑥ Yの右上腕を、Iの右前腕にてYを前下方に引き当て、落し極める。



① YN右突き。Iの右小手内側よりNB側にて受け、



② Y右腕を回し上げながら、



③ YN廻し上がった所で、





① Y 右突き。I 左に転じつつ、左腕にて払い上げ打ち込む。

② I は N 右天地当て、即ち自然に右 N 振り突き上げと云うことになる。



ナイフ捌き

これは N 体を自由に捌き、使い分ける練習のものである。



① Y 右突き。I は右 N D にて抱え込み Y の弱筋当て、



② I 右 N D にて Y 弱筋を上より当て込む。





▲Y N 右突き。I は左
転右足蹴り当てる。
Y N 飛ぶ。



▲Y N 右突き。I は右足前転背抜き捌き、右ND
にてY の声当て、I 右膝Y の右框を捕っている。



▲Y N 右突きを、I は左足体変背抜きに捌き
ながら、左肘にてY 仏減当て、I 右腕後ろ
振り体変。Y 右腕跳ねよりI N 万变。

① 八字の構え。



② YN右突き、斬りに来る。I右足斜め前に体変、入身。Y左雨戸翼切りに行き、



③ I、Yの左手捕りながら体転。IN、Y右雨戸当て極め。



体変払い技

YN突き。IN横刃にして上よりY小手打ち、即ちINC Fの一如の使い方の骨法を云う。



▲YN突き。I体落しながら、右下よりNC斜下より斜め払い止め。変化出来る型である。



▲YN突き。IN体落し、斜め外下より右腕伸し受け変化待ち。

▶YN突き。I鬼角にてY弱筋打ち込み入身。変化待ち。





④別法として、Yの攻撃に対しI諸手。
Iは左前方にYNを受け流すごとく
入身。



⑤INBにてYの右腕を捕りながら、Iの左腕にてYの右腕を
極め倒す。



①Y上段より斬り込み来る。



②I諸手受け入身。即ちIは右手首を
左手で握りながら、Y斬り込みをI
N又はIN握り拳にて当てる。



③IN、Yの右雨戸当て。この際Iの
左肘にてYの右腕を打ち込む、払い
ともなる。



③ Y 右腕下外より I N B にて捕り、



④ I は鬼碎型にとりながら、I N にて Y の小手斬りに極める。



① Y N 上段より斬り来る。



② I は潜り型に左拳にて、下より掴むと言うよと当てかけて、



③ I N、Yの左首後方より廻し捕りに極める。



① Y N上段より逆刃にて切り来る。



② Iは左足斜め前に前進。Yの斬り込む腕をIの右肩に捕り、

④即ちIの体を廻すことにより、Yは倒れて行く。



⑤Yあおむけに倒れる。I N、その右禁に極まる。

①I N、Y N上段より斬り来る。Iは拇指外にしてY右腕捕り、即ちI拇指Yの右手甲側にある。

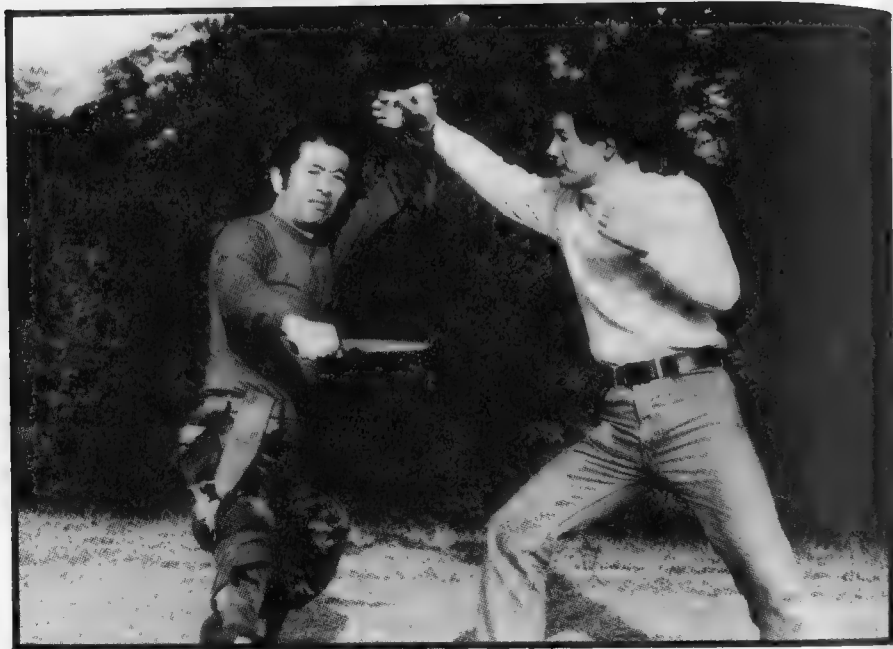


②Iは体を落としながら潜り体変。I Nをその左手に当てながら、Yの右手をIの左手は表逆捕りに変化して行く。



③Iは体を立ち上がりながら、I Nを支点としながら巻き込み、

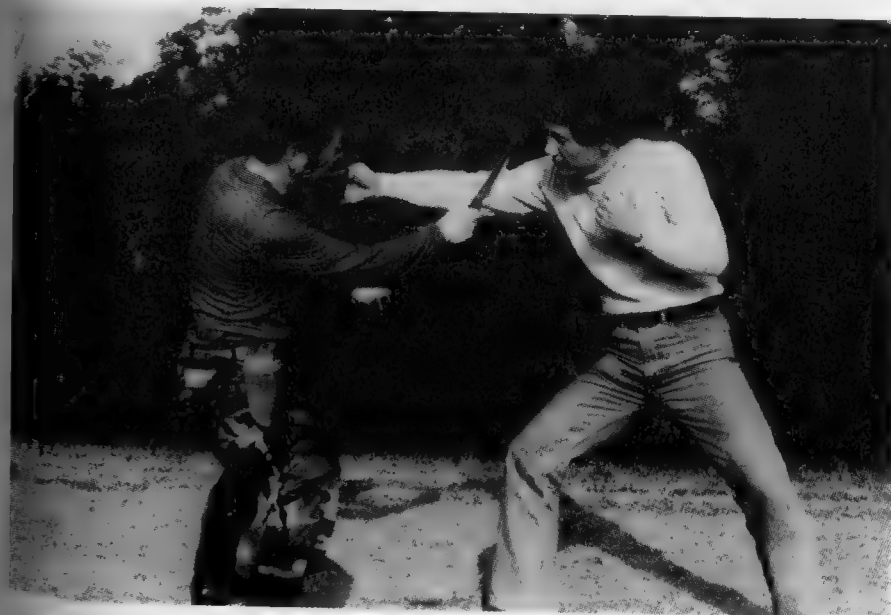
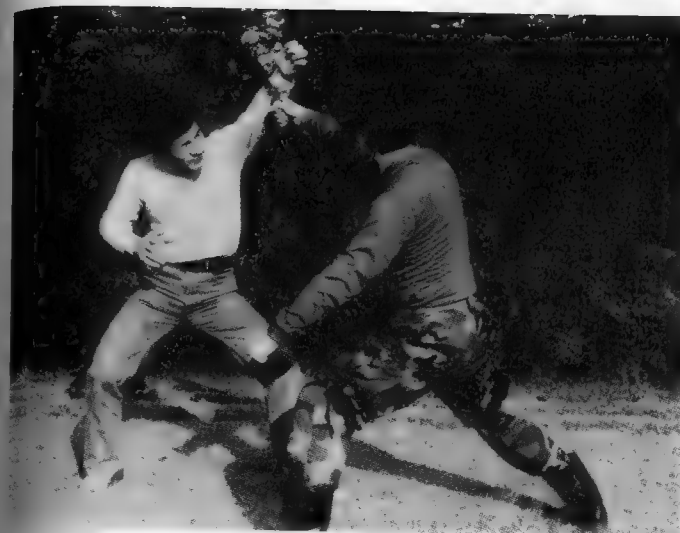




③ I 左腕にて Y 右腕をはね受け、I N 突きの構えにて残心。I は N F にて Y の攻撃をなるべくさける練習ですが、N C、N D 等、N をもつ拳それ等でナイフの刃を使わず、Y の攻撃に対し傷をつけない訓練である。

両手払い

① Y 左突き。I N F にて下より払い上げ、



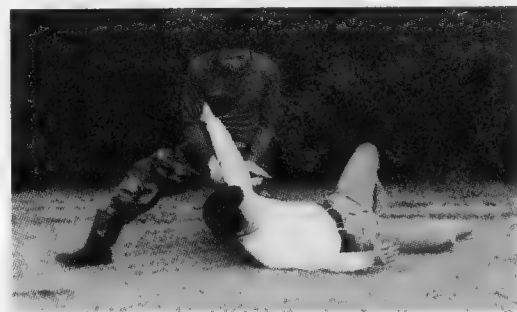
⑤ Y左腕をかかえ込み、



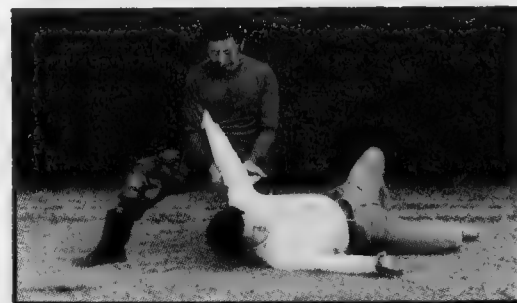
⑥ I NB諸手捕りにて、
体変しYの左腕捕り、



⑦ 体廻し落とし、Y右腕
逆捕りとなる。



⑧ I NCにてYの左腕弱
筋極め。



① Y攻撃の捕え、



② Y右突き。I左前腕は
ね受け、



③ Y右突き。I NFにて
払い当て、



④ I NC刃返当てながら、



④ I N 押し切り同時、I 右膝 Y 右膝側圧して行く。Y たまらず転倒。



⑤ Y 後方に倒れる。



⑥ I は Y の右抱の急所を I の右膝拳にて押し極め、N を上段に構えて残心。



① Y 右突き来る。I は諸手に N を持ち入身。



② I は右腕肘にて Y の右併減当て同時 I N、Y 声に当てる。



③ I N、Y の声当てに押し落し極めて行く。この際 Y、右膝を I 右膝にて左方に押す。



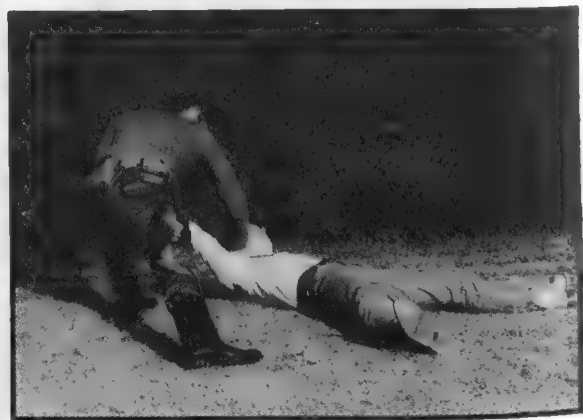
④ I は右表逆締め、同じくして N
C 同時体変に廻し、押しに出て
行く。



⑤ Y は倒れる。



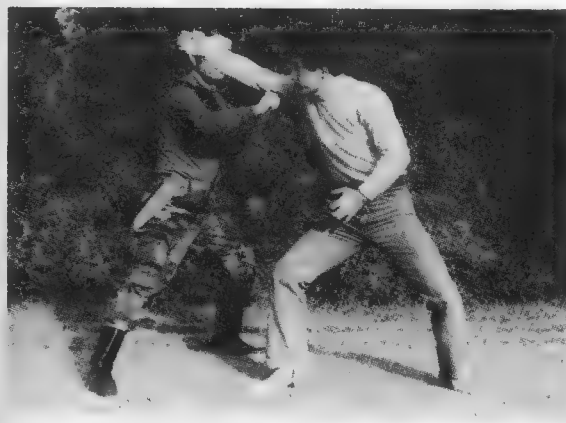
⑥ I は N C にて Y の右雨戸極め、
残心。



① I N を逆構えにもつ。N C 下向
け、



② Y 右突き来る。I 左足一歩左斜
前に体変しながら、N D にて Y
の弱筋下より打ち込み、はね上
げながら、



③ I の頭体④越しの所で、I は Y
の右手を表逆型に捕りつつ、N
C を Y の左禁に当て、



⑤瞬間、Yの右突き腕をIの左肩と左腕にて捕り、体の変化によりYの右腕逆どりに行く。



⑥IはYの右雨戸をI-Nにて極め。



⑦Iは腕逆と雨戸当てのまま体変。押し伏しに極め。



①Iは右手Nをもち、誘いの構え。



②Y右突き。IはY突きを膝の屈伸だけで、上体を変化させて体変。I-N右手より左手に持ちかえ威嚇す。Y一瞬、攻撃心迷い止どまる。



③Yは一步後方に引き、隙見て右突攻撃に出んとす。



④Y右突き。Iは体変しながら、I-N右手に移って上段威嚇の構え。





③ IはYの右腕を抱え込み、体にて押し逆にして、Y体を伏向けに極める。

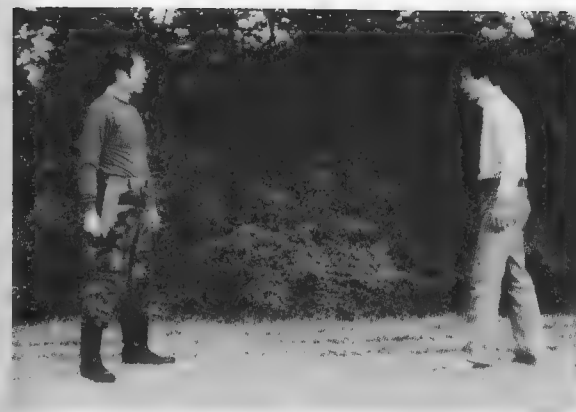


① Y N右突き来る。I体を素軟に風の如し、Y N蝶の如くひらりと体変。この体変は、体の素転により近くの攻撃を、瞬間に足を動かすことなくNを避ける大事な動きである。



② Y N右に流る。IはYの右雨戸を、I右腕横振りの振り運動の如く、I N Dにて、Y左側どこでもよい急所当て。I無意識の打ちの事。

①この技は、Nをどこにかくしているかを見破る術である。Y N右突きに、隠しNで来る。I Nも隠し構え。



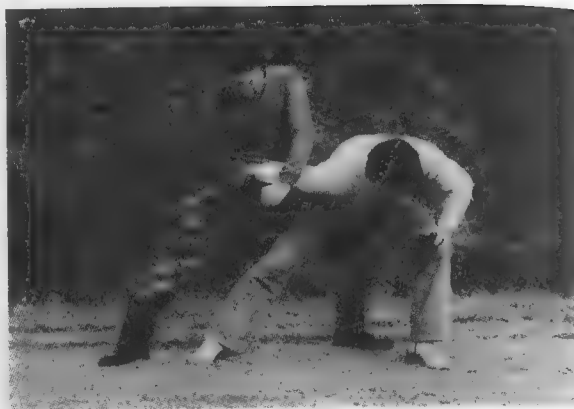
②YはNを右突き、N前腕に秘める。Iはそれを察知、掌当てにて探ぐる。



③Y N隠しをとりだし、Y N右突きに再度来るを、Iは右腕にて抱え捕りながら、左腕にてY右肘逆捕り。



④Iは左膝にて、Yの体を浮かしながら、調子捕りに出て、



⑤IはYの体を前方に捕りながら、I右膝にてYの右足捕りに。体膝打ちに当て、三ヶ所一度に極め。I NはY右催極めている。



③ I NにてYの右腕をひっかけ捕り。
IはYの左腕を、Iの右手にて後ろ
より捕る。



④ Yの諸手逆に捕る。IはNに
て、Yの左腕切りに極める。



① 相対にNを持ち構える睨み構え。睨
み構えとは、眼の変化虚実を用うる
ものである。眼空となる。



② Y N右突き来る。I
は左足斜前体変。I
右Nにて釣型に、N
Fにて抱え、

① Yは右脇より、Nにて斜め切り
上げに来る。



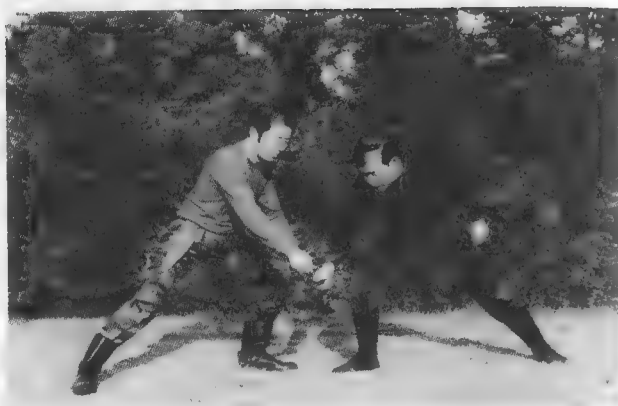
② Iは体変。②③への膝の屈伸
による体変は、軽く大きく体振
る。練習の事。



③ YN、再び前屈に空き来る。
I



④ YN伸び来るを、I前屈斜膝体
変。と同じI Nにて、Yの右小
手打ち押し。



⑤ Iは、Yの右小手をYの右膝内
側に押えつけ、入身。

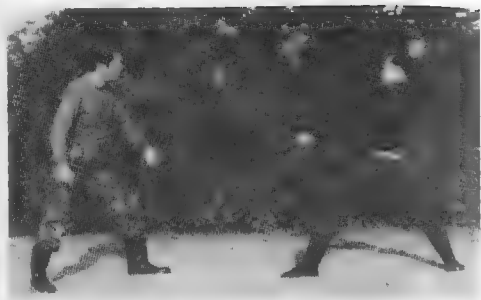


⑦ IはYNを左手にて捕り、
そのYNにてYの後ろ抱を
押し、極める。



⑥ I Nにて、Yの右小手極めながら、YNを
捕る。

① I N 自然の構え。Y N 上段より斬り下しに来る。



② I は潜型にて、左手にて跳ね受け、I 右腕にて Y 右腕外より受け、Y 体により I 右腕押し、体入身により Y 体を左向けにする。



③ I は左足、Y の右足後ろに入身。I N にて Y の右膝に極めながら、Y の右腕肘は、I の左手にて極められ、動かすこと出来得ぬ。



④ I N C、Y の右膝極め、I 左腕 Y 上腕上体極め、捻り落とし倒す。極め。



① Y N 斜切り来る。I N も前腕にて相斜め受けに出る。この際、I の右膝 Y の右脛管に打ち当てる。上下打ちとなる。膝の屈曲拳を用いる。



② Y 右膝を体変。I の両腕にて、Y 右腕狭み捕りに。Y の右腕を逆腕攻撃、同時に I の左足脛骨にて、Y の右足裏より抱を押しに行く。I の体を落とすごとくする。



③ I は右かけ、腕手前に左前腕、Y の右肘捕りに。I の左足 Y の右足押捕り。一所拍子捕りに前倒しに極める。





④ Yの上半身を、後ろ向けに払い押すことになる。



⑤ Iはその瞬間、Yの左膝後ろより潜り型にて、I・N・CにてY左膝折に押し倒すことになる。残心。



① 相構え。Y右蹴り足に来る。

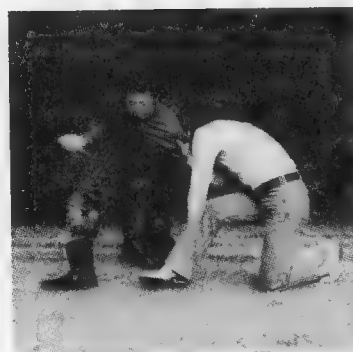


② Iは左足を斜め後ろに引きながら、Yの蹴り足を伸ばすだけ伸ばさせ、Yの右足蹴り足かえりきばに、

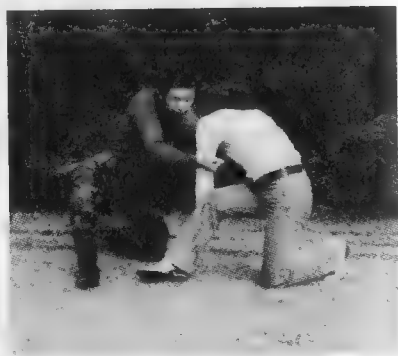


③ Yの右足払い上げに行く。即ちIの右NDそのポジションだけで払い受けるにあらず。右ND腕体一体にて行く骨法。

④ I 左膝落すことにより、Y の左肘逆となり、Y 体捻り体逆となる。I N 上段に構えたまま。



⑥ I 体は右に開くことにより、Y 体崩れ痛みの為、

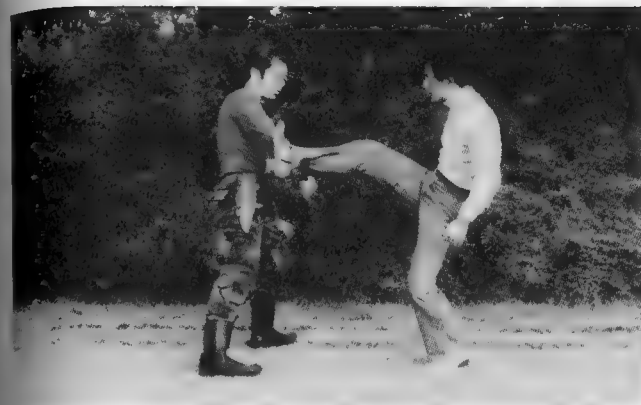


⑤ Y 左腕外側より、I N にて上腕を切り捕りに引く。

⑦ Y 体バランスが崩れ、側倒に極まる。残心。



① Y 右足蹴り来る。I は右 N にて、Y の右足下より N にも、すくい捕り。



② Y 左拳突き来る。I は左手にて、Y の左腕外側より Y の左拳を捕り、この際 I は手で捕るを第二として、体で避けて後捕る。余裕を身につける事。



③ I 体落としと同時に、Y の左手下に引き捕り。Y の右膝外から体のバランスを崩す。



① Y 諸手にて、I の右手
首捕り来る。



② I は NC を Y の右前腕
にかけ、引く、押し捕
り。気のままに行く。



I N 手首だけに行くの
でなく、右膝を見て下
さい。体を落とし、体
で Y 手首を踊らせてい
るのです。

③ I は N に左手そえて極
め、Y の右手をはずし、

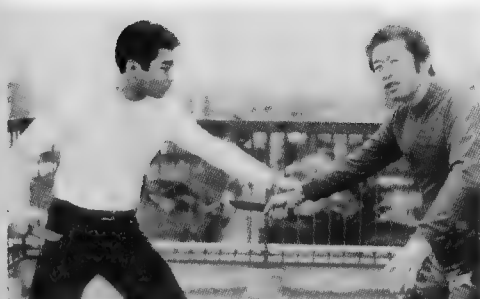


④ 再び、I は Y の左腕下
より、I N にて外側よ
り捕り、斬り落とす。



又は、Y 手首裏逆本逆
に捕るか、手解きの変
化の練習、その最法を
会得する。

① Y 手にて I の右手捕り
に来る。



② Y N にて突かんとする。
I、Y N A を一点に絞
られ凝視する事なく、
身体全体の気を見るこ
と。



③ I は Y の左腕外より、
I N にて外廻しに捕り、
Y 体右 N 突きを崩し、



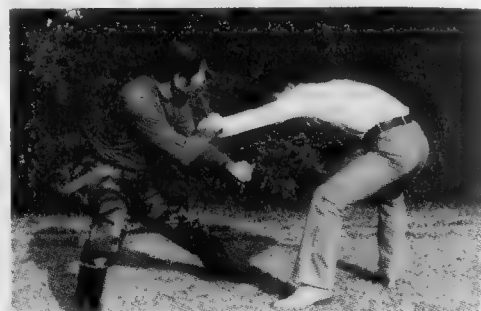
④ すかさず Y 左腕を I の
右手に捕り、引き込み
ながら体がえ。Y の右
腕星を、I N にて極め
るようで、Y の左腕肘
が極められているので
ある。残心。



① YはIの右手を捕りに来て、右拳にも突かんとす。



② Iは右N外より廻しながら、Y左手裏逆引き込み、Yの右突きを殺す。



③ Iは体立ちあがりながら、左拳にて外よりYの左肘を極めつつ、手首を返ししながら、Yの左前腕を左手に捕りに行く。



④ 即ち、Yの左腕を連絡捕りとして、I右NにてYの左脇極め。万変の骨法会得、軽妙なること。



① YはI N右突きを、体を開いて表逆型にとらんとす。



② Iは体変しながら右腕を伸ばし、Y体崩し、右膝にてYの左膝捕りに行かんとす。上腕、下肢の虚実の体捌きである。



③ Iは右膝にて、その左足を極めながら、Yの変化に応じて行く事が大切で、相手の動きに乗ずる骨法を会得しながら、自然勝身の訓練をする。



④ IのYへの足極めは、Y途中で崩れるI右Nにて、Yの左脇等を極めながら、自然捕りのこと。



① YはIの右手首を、両手にてしっかりと引き捕りに来る。そこに乗じて、N体の調子捕りの骨法を利用して、



② IはYの右手下より、Nを廻し込みながら上にあげ、裏逆捕型に行く。本逆の場合もあり。



③ IはYの右手を、Nにて狭み捕る。I左手NBそえると同じようにして、左膝にてYの右膝側当てに捕りに有る。



⑤ Y体を体にて後ろに引き上げつつ、I N、A Yの右雨戸にとどめる。残心。



④ Y右膝極まる為に、右膝折敷きに落ちる。Iは右NにてYの両腕捕りのまま、Iの左腕にてYの頸締め極める。



⑤ I N、C Yの左雨戸当
手に出る。Y たまらず
両腕はずす。



⑥ Iは左前腕尺側拳にて、
Y左膝足裏を打ち落と
す。と言えども、Y体
をゆすぶり捕り、逆海
老捕りに行く機を見る。



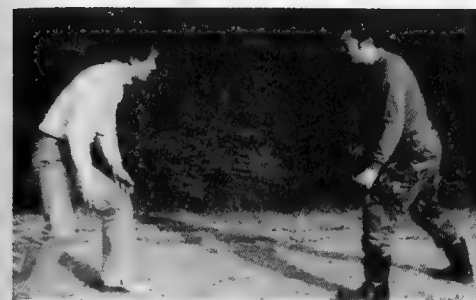
⑦ Y伏向けに倒る。海老
捕りとなる。Y背骨折
りの為、苦痛が激しい
不動なり。



⑧ IはYの右下腿裏を、
右膝にて体打ちに出な
がらI N急降下に極め
る。



① 睨み構え。



② I N右突きに行く。Y
は諸手にてIの前腕を
捕り、体を入身して来
る。I右手その逆捕り
を突き込み捕らせ、よ
く虚実に行き、



③ Yは体を変じて乗ずる。
Iの右腕抱え逆折りに出
る。I左手拳、Yの左足
時に当てる。

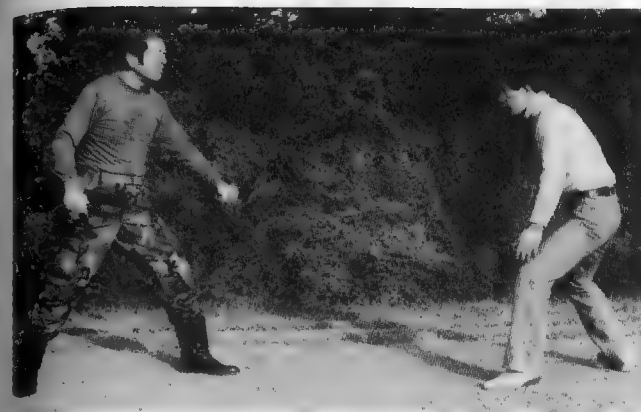


④ Iは右肘拳受け、仏滅
当てに出ながら、体を
立てなおし、Y体側前
方に押し崩し、変を遊
びながら、

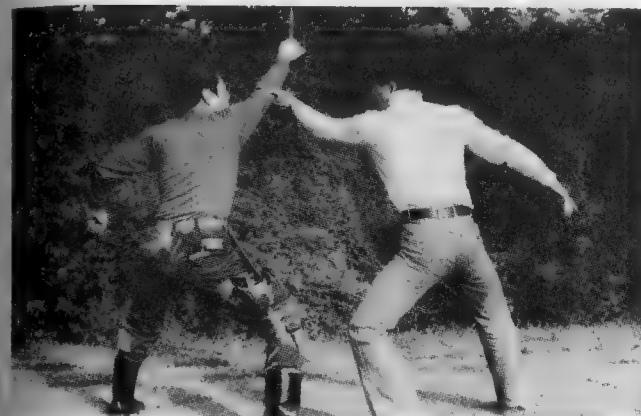




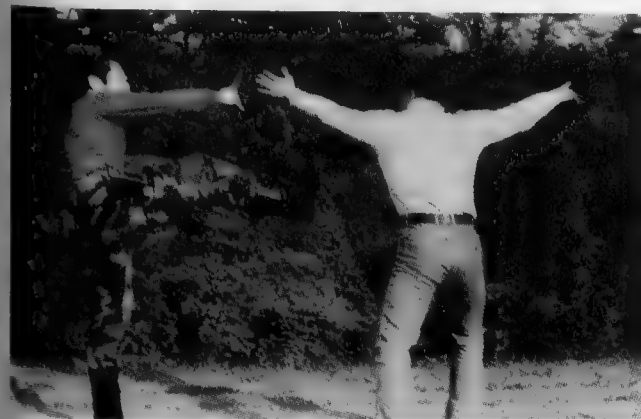
④ I は左手にて、Y の左腕外側より掌にて当てながら、体押しに出ながら蹴り落とし。足 Y の左強頸を踏み当てながら、Y N C にて I 左脇極める。強頸とは、左右の足、五指の上を言います。



① I は N を右より左斜上方向に切り上げ、押し切り、突きに出る。



② Y 体変。左手にて、流れる I の右腕を下より払い上げる。三心払いと言う。



③ I は払いをさからうことなく、右足蹴りの調子で行く。行雲反射的に出る。調子自然の事。Y の左前腕を払い蹴り上げとなる。

⑤ Iの右手支点にして、Yの左腕体を捕り体落としに。Y左足を引き廻り返しの虚実にて、Y体を不安定とする。



⑥ Yたまたらず前倒し、その左手逆押え型となる。Yたまたらず右手にてY体を支える。為に前倒しに受け身に出んとする。Y左腕Iの左大腿にしっかり捕る。



⑦ Iは左腕を体にて前押えに極めつつ、Yの右腕、Iの左手にて捕り、大逆に極める。両翼捕りに極める。

① 相構え。虚実の構えのこと。



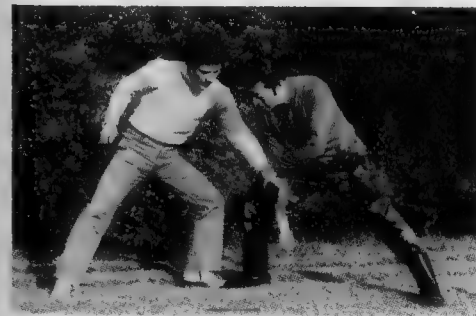
② I右突きに行く。YはIの右流れを体変と同時に、左拳にて上よりたたき落とす。



③ IたまたらずNを落とす。Yしめたと、一瞬気をゆるめる。I騒がず、負けをあたえて勝をとる。真剣型の心意気にて。



④ Yの左手首を、Iは左手で軽くつかみつつ、変化順応。



① 上段より突き落としの構え。
Yは体落とし構え。



② Iは右N突き下ろす。Yは鬼砕き型にI腕を捕りに行く。即ちYはIの右腕を左手にて前腕うける。右手はIの上腕下外より入れ込み、Iの右腕を屈曲させて捕る。



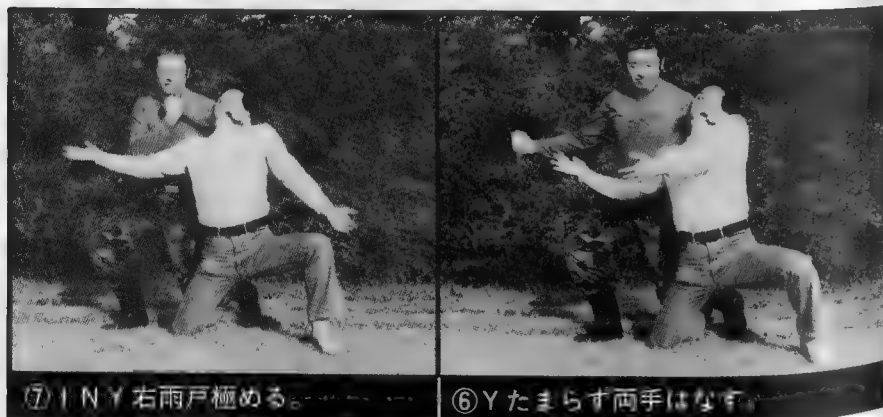
③ IはYに鬼砕きを捕られる。瞬間、左拳にてY後頭部血止め当てる。



④ IはYの左歯止めを、I左拳にて押し打ちに極めながら、NAをY顔面に行かんとす。



⑤ Yひるむを、I NにてY左腕捕り、I左腕にて首締めつつ、左膝拳Y足右抱き極めに行く。三ヶ所攻撃となる。



⑦ I N Y 右雨戸極める。

⑧ Y たまらず両手はなす。

① Y 後方より、諸手にて Y N 体突きに来る。



② I 察知術にて、左足後方斜めに Y N しのぎかわしに出る。すれすれにかわずと言うことである。I は避けすぎてもいけない。間のよしあしで、I の反撃可能とするからである。



④ 両足捌きなく、膝の屈曲体変により変化。その際、I 右 NC にて Y 小手打ちに出る。



③ Y 体合致する瞬間をはずし、前後 I 右肘拳を上げ、Y 朝霞当てと行き、



⑤ Y 心中 I N にて突きあげ、同時、Y の頭部（古くはタブサ捕り）引き倒す。残心。



① I N 振り下し、亦是 I N 右突きも同じ。Y は両手にて I 右手をとり、背負投げになげんとする。Y 左拳を抜き当てながら、



② I は Y の右肩から I 右体をすべり落ち倒れるごとく、横受身の如く、体変。



④ I NA、Y 権を当てる。I ND は必然的に、Y 左仏滅に当てても可能である。



③ I 左手、Y 体を抱える。I 右 N は Y の左権に当てる。I 左手 Y の左脇捕りのまま、

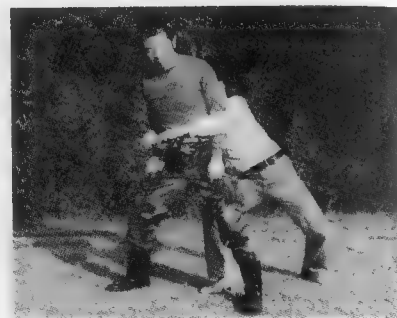
⑤ Y の左足大腿を肉狭みに捕りながら、Y 体を捕り二つ折りとする。I N Y 左権突き通し切りに極め、ND にて返し左仏滅砕きの反動にて、I は立ち上げる。



① Yの両腕上よりカン
ヌキ締め、後方より捕
り来る。I両翼一寸張
りゆるめ、その瞬間に
手首自由とする。



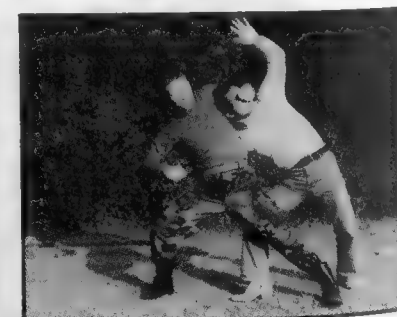
② I NC一寸刺しにて Y
の両腕をほどく。NC
とは限らず、NFにて
も N B N D にてもよし。
I 左手拳にて Y 急所捕り
もよし。



③ I 両腕軽く開きながら、
I 左脇下を開きながら
体変。Y 首を左腕と抱
え捕りに誘い込み、



④ I 左腕拳にて Y の顔面
捕り。右 N にて極む。
又この体勢にて首投げ
にてもよし。I 左大腿
膝にてもよし。後ろ重
身に捕る。



① Y は I の両腕下より、
後方から両翼捕り、首
捕りに来る。



② I は左臀部より左後方
に体を抜き、



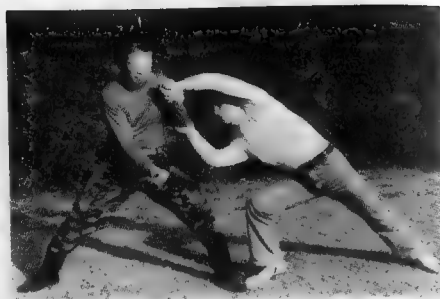
③ I N Y の右膝後ろより
極める。たまらず両手
はなす。又抜ける際、
I N D にて Y の権の急
所打ちもよし。I 両腕
張りつつ。



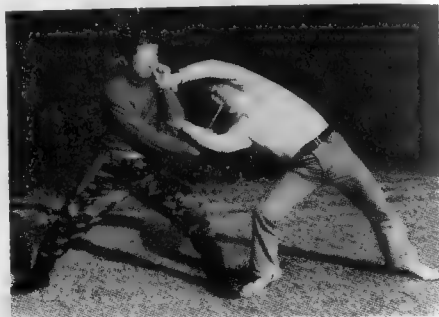
④ I 体変に体を抜き、Y
の天頭 I N D にて当て
倒す。



⑤ I 左腕 Y の左腕外側より手前に返しつつ、しっかりと引き崩しに出る。Y ② 体のバランスとれず。



⑥ I NA、Y 右顔面押え当て。Y の右腕極めつつ、I NC、Y の右腕肘を極めゆかん機をねらいつつ、



⑦ Y の左手首を I の左手なし捕り、斜め後方に Y を引く。I 右 N は Y の右腕支えるのみ調子捕り。



⑧ Y の最高の崩れを、いつでも練習によりその限度を悟り保つこと。I の両手支えとなる。I 両手一寸抜くだけで、Y 体たまらず仰向けに落ち倒る。

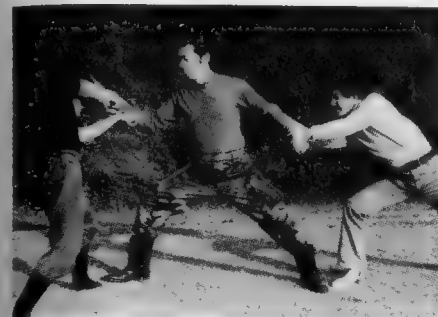


① Y ① ②、I の両腕両手にてしっかりと捕る。

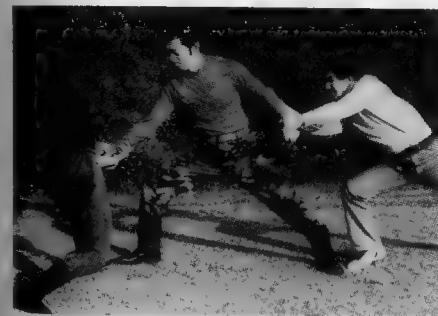
この際一番大事なことは、Y-I-Y-Z が力を入れて捕るも、我れは両腕体とも力をぬくことである。



② I 体変しつつ、I-N-Y 右腕外より返し捕りに行き、



③ I-N にて Y ① の両前腕廻し極め、突きと引きと変化する。勿論 Y ① 体 Y ② 体踊らせる。



④ Y ① 倒れる。I 体変にて Y ② の調子を計りつつ、



第4章
ピストル術実技



▲アメリカの一警察の射撃場にて





▲彼等のピストルの弾丸は強力なものである

る。驚いたことに、これ等を用いて警官が体を鍛えているのかと思いきや、囚人がトレーニングしているとのことである。そしてマーシャルアーツを囚人共は、牢獄でトレーニングしていると言うことである。警官のピストルをいかにしてとるか、警官をいかにしてぶったおすか、驚き桃の木でありました。トレーニング場の壁には、美人とブタのポスターがはられていた。

ジョー「アメリカでは、警察官のことをブタと言います」

初足「ホワイ!!」

ジョー「囚人達は、ブタ箱で一生懸命体を鍛えています。警官は、その間、シユガー入りのコーヒーを飲んでます。警官、体を鍛えない。肥っています。ブタですね。警官はピストルを持っています。ピストルがあるから体を鍛えません」

物質文明の弱さをこゝに見たのである。併し一方では、警察官共はこんなことを囁いています。とジョー君が話してくれた。

「警察官はガンにたよりすぎています。ですから、

▼アメリカ警官のジョー君と共に



アメリカへ着くなり、開口一番、友人に言はれた言葉は、アメリカでは「あまり武道家と言はない方がよいですよ!!」と言う一言であった。そして又、武道家と言う一言がビジネスにマイナスになると言うことであつた。武道家と言う、エリート意識は、日本でしか通用しないと言うことである。何故だろう。

私には一趣のお国柄のものの見方、考え方だろうか？と深く考えないことにしたものの、忍者特有の条件反射が、彼等の根底を突き始めていた。ニューヨークでのマーシャルアーツの指導は、大成功であつた。私のテイチングに対し私が何をもつても自由になす。大の男を自由に、数人相手に踊らせる。彼等は私を称して、ニアマジツジャンと賛辞をランゲージと共に示してくれた。扱てアメリカ縦断、道々一警察へと立ちよつた所、武道家が底辺に見られているゆえんを発見することが出来たのである。警察では、ポリスのジョー君が、署内を親切に案内してくれた。署内にはトレーニング場があつた。ボディビルや、体を鍛える為のものであろう。色々な器具が並べられてい



▶アメリカ警官がもう一つのピストルを隠しもっていると言う、隠しピストル。

ガンのないときは一つの不安と恐怖は常にもつています。それでシュットの練習はよくします。射撃練習の単位は六発入れのガンで、七十五秒間に十八発射てるようにします。三回の弾入れ交えタイムを入れてです。色々の構えから射ちます。両手で射ったり、左右の手で射ったりします。三年位で上手くなります！」

やはり、ピストルの射撃訓練も石の上にも三年と言うことになるんですね。SWATと言う、スワットチームの射撃練習もたいしたものですよ、と言っていた。彼等はどう一つの、小さなピストル二発弾の入ったものを所持していた。隠しピストルと言うことになるのであろう。物が、ガンがないと何も出来ない彼等の意図が、小さなパス入れみたいなのに隠し入れたピストルを持たせる。物質文明の護身の知恵なのであろう。

初見「よしきた、ジョー君。弾のないピストル術を伝授しよう」

と言うことになったのである。

体術から生まれるピストル術彼等はマーバラス、ワ

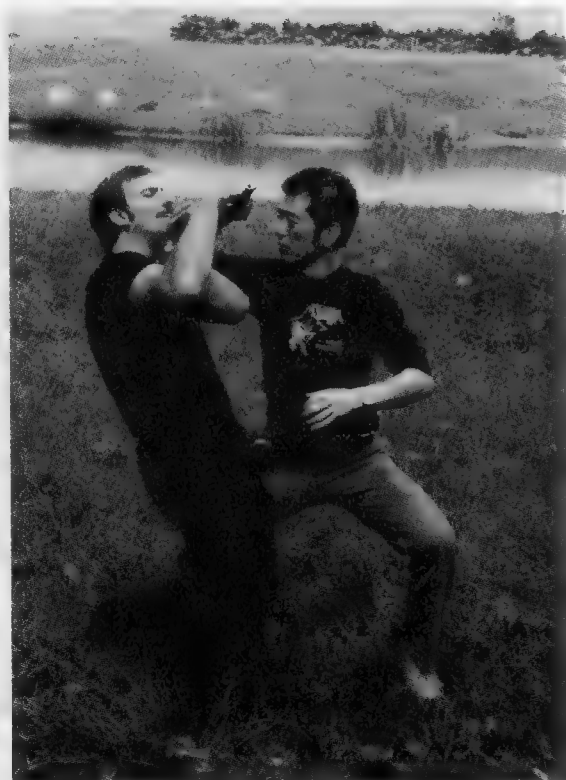


▶皮のケースには弾が発補助されており、引き金の部分に穴が空けられており、ピストルをケースから取り出すことなく射てるしくみになっている。

ンダフル、と連発であった。「ジョー君、この技を会得したんだからね 弾六発入れのピストルも、七発いや、六発プラスアルハーと言うことになるんだよ。頑張って、勇気をもって、アメリカ市民の治安を守って上げなさい！」

と言った所、彼等は私の帰りがけ涙を浮かべて、固く握手して、グッバイ、サンキュー、と別れを惜しんでくれたのである。私は彼等の為にも、帰国したらかならずピストルファイティングの本は、かならず出版しようとしたのである。そして又、何故アメリカではマーシャルアーツが底辺に蠢めく癌なのか発見することが出来たのである。そして、ピストルは弾がなくても有効な武器になると言うことを彼等にたゞき込み、勇気を与えることが出来たのである。

② 又は、Iの右肘をY左手上より、Yの頭打ちに入身に出て極め、



③ I体引けば、P射講となり残心。



① Yは両手にてIのPをつかみとらんとする。IはPBC部を左手にて握り、Yの右手外側よりPを横にして、本逆型の如くYを捕り、PAをYに向け極める。

④ I 左足 Y の前に入身。体にて Y の右腕逆極め、Y 体前のめり、I P を捕り、



⑤ Y 右肘逆を、I 右肘又は前腕にて押え捕りにする。即ち、Y 右腕は I の右大腿部にて、押えられている事になる。P A Y の右霞当て極む。



② I は Y の右側に一転体変して、Y の右腕首を右手に捕り左手は、Y 右腕の肘下より突き込みながら、



① Y 後方より、両手にて I P D を捕り引きとらんとする。I は Y 右前腕を押さえるごとく、右前腕背部にて捕る、そこを中心として、

③ Y 右腕逆にとり、腕折りに出る。Y P をはなす。I 左足 Y の両足前に出し、Y 両足足止め、





Nの投げと突きの要点

▲ナイフ投げの型である。Iは右脇に上肢を振るのごとく振る気持で、前方の目標に向かってNを自然にはなす。

▶武器は魔物である。武器と云うものは非常に危険です、絶対に人に向かって投げてはいけません。投げ突き三心一如と云う動きを、よくよく味わって訓練することです。



② IはPAを避けると言うより、むしろ背体にて押すごとく、背向にて右後方にすべり、体変のこと。抜けるごとく体変することである。この骨できまるから心して下さい。



④ Iは左手にて、PBCをYの頭部越しに捕り、Yの左顔面急所打ち締め砕き倒す。



① Y後方よりPAをつけ、ホールドアップ



③ I体はたえずY右腕を殺している。I体変、右拳前腕肘一体となり、その朝霞と右弱筋打ち上げ、



◀NBCFを右手に握り、右上よりNのABCFCの重さの貫性で目的に当てる。直打、廻転倒、いづれも現象としておこりますが、訓練の上Nの特徴を判断、その骨法で目的に打つ。



①Nを、Iの左脇よりYに向かって投げの骨法。



②体変と同じゅうして、Nを自然に目的に向かってはなす骨法。

①一文字の構え。



②右足前進、右手振りに出て、



③目標射撃、止まるなきこと。第一の骨法。



三心射ち

側方より見た写真



①ナイフ投げも射撃も同じようなものである。一文字に構えて、

三心射ち

前方より見た写真



③体構えに射撃をする。



②右足前進と共に、右手振子の如く目的に体と共に慣性にて振りながら、



②左膝屈曲しながら、右P目標に振り下し、射ち込む。



①怒虎の構えよりP振り下しながら、



④又はPの振り下ろしと平衡して、右足前進に極める。



③この際、左手も下げながら体のリズムをとる。

三心斜め射ち

①一文字の構えより、



②右手一寸開き、右手振りにて、



③針め射ち。



④②より、体変による正面射ち。いづれも四天八光のこと。



上より下へ手裏剣投げ

Pと云うものは、ひも鎖をつければ鎖分銅に変化し、投げれば手裏剣、ピストルの体で攻撃すれば、隠し武器と変化するものである。



三▼活盤射ち型

…側方より見た写真



②右手にてPを抜き出しながら、



④目標に当てる。



①左フトコロにPをひそませる。不動半立坐型。



③右手首の振り当て活盤投げの骨法にて、

三▼活盤射ち型

…前方より見た写真

▶前記同じゆうするも、側方よりの写真により、体構えの変化をよくよく学び、その骨法を会得すること。

▶前記同じゆうするも、

▶前方射ちの骨法。

▶側方射ちの骨法

▶後方射ちの骨法。



三▼抜き打ち型四方射ち



▲後方射ち。



▲前方射ち。

▶側方射ち。



▶隠し射ち。左腕下よりPを隠しながら射つ。



三▼四方射ち型



②右足流し、横流れ射ち。



③右足前に流し、立流れ射ち

④
②又は③より体変、返し射ち。



①Gを右後方より、手裏剣投げの要領で投げ射ち。



▲右側方回転射ち



▲側転



▲回転

体型術型

ナイフでもガンでもそうです。体の変化と共に、自由に攻防出来るアクションが要求されます。それには、GAを支点として自由に自分の体をコントロールする訓練をする必要があります。



② Aにて振り上げ突き、又は直突。
例 Yの右突き券を、PAにてバントの要領でアタックしても効果が大きくなる。



④ 例えば、PEにて打ち込む。又は押さえる。



① Pの全体を一つの体器として扱えば、いろいろな技が生まれるものである。先づPの体術を発見して下さい。



③ Iの左手にてBCを握り、P体器にて色々な攻撃防禦の具とすること。



⑤ PDを左手にて支え、PAにて突き込み。跳ね上げ、払い落とし、左右払いと、PBCをフルに使う骨法を会得する事。

ピストルの打ち型その変化



潜り打ち。横流れ、側転、反転と変化。



捌き横歩き射ち。横飛びも必要です。



反転射ち。横流れ、立流れ、後転と変化。



流し射ち。反転、横歩き立ち。

① Y 右拳突き来る。I は
右に拳をながし、P B
にて Y 弱筋打ち。



② I P B C を左手にて握
り、P E にてと Y 仏
滅打ち。



③ Y 正面向きにかえり、
包囲の構え。I P 右手
前方に出す。



④ Y 右拳突き来る。I は
P A をそのまま出すこ
とにより、Y 人中当て
倒す。



ピストル捌き型



▲ P B C を左手にて握り、P
E にて Y の歯止打ち。



▲ P C にて、Y の左霞打ち。



▲ P B を I は左手添えて振り
落としながら、Y の時の当
打ちの骨法。



▲ 亦是朝霞打ち上げ。

▶ P C にて、Y の左龍門打ち下げる。



①再びY右突きに来る。Iは体変しながら、Yの右腕上りなえし突きに、PAにてYの左弱筋当て。



②IはPBを、Yの左手一人よりY左腕越しに、PBCをI左手にて捕り、Yの左上腕を締める。



③Yの左手はなつ。再び右突き来るを、IはPCにてYの右雨戸当て倒す。



①Y右突きに来る。IはPを返しながら体変。左手にてPBCを、Cを上にして握ることになる。



②Iは左手はなす反動にて、Yの右流れをIPにて打ち落とす。



③I入身しながら、PB又はPFにて人中当て込み。



④IはPEにて、Yの左雨戸当てに行き、I左手にて右雨戸を当て、両雨戸当て締めて変化。IはY締め手はなす。



① Y 右突き。I は P A B を下より振り上げるように、Y 右手を打ち上げ、即ち P B A とは、P の先端角と云うことである。



② I は Y の右手を小手逆表逆捕り型として、しっかりと捕る。



③ Y の右肘関節内側を、I は右 P E にて押し打ちに倒す。Y は仰向けに倒れる。I つかさず右膝にて、Y 右前腕部急所を踏み当にて捕る。



① Y 右突き。I は体変。P D にて体引きに、Y の弱筋内方より引き打ちに出て、



② そのまま I は Y の後頭部に P E をかけて、Y 右大逆と共にとり、



③ Y の右当りの急所押し打ち、I P E にて伏向けに倒す。



① Y 右突き来るを、I は右 P A にて Y の左脇きに当てる。Y はた
まらず不動。



② I は入り込んで、Y の右手逆蔵石型にとり、Y 反撃せんとするを、



③ I は P を返すこと。体と同時に変
化すれば、P C がその顔面に当
たる。



④ そのまま体を右に変化する。こ
の際、I の右臀部又は大腿にて、
Y の左大腿に当て押し捕りにい
く。



⑤ Y たまらず右手を地上にささえ
るを、I は体の調子に Y 体を泳
がす。Y 体変にて逃がれんとす。



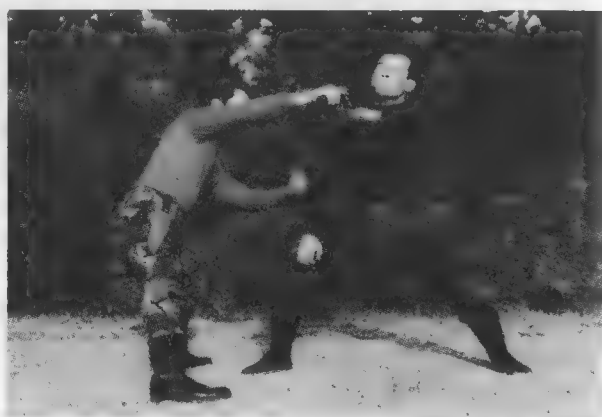
⑥ I は体を左に抜きながら、反動
にて P A にて Y の左霞打ち倒す。
この技もポイントには、押え極
めると云うのでなく、空間で Y
を困らせると云う骨法を会得す
ること。



④ I P 右前に廻し誘動。円形に Y の右膝内側にもって行き、押えつける。



⑤ Y 右拳引き逃がれんと体変するを、I はすかさず連撃に出る。



⑥ 即ち I は入身、又はそのままの体動により、Y の左霞を P B にて当て、I 左拳は Y 右流れ打ちにしながら、Y の右前腕を Y の左膝、又は大腿にて押さえつけることになる。Y 転倒に行くか I の自由変化にあり。



① Y 右突き。I 体変、P にて Y 右拳打ち当て、又は落さんとす。Y 体変。



② Y 再度右拳突き来る。I は P B C の側面 F にて、右に払い押さえの程にて、





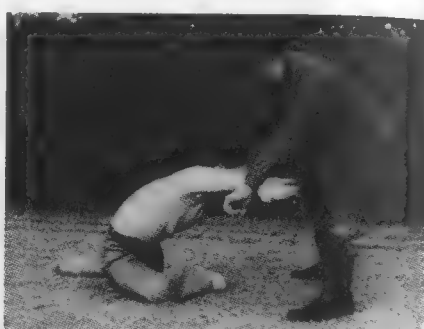
② Iの右手は、Yの右上より裏逆におもいきって廻し、Iの左手Yの右手下よりPCBをつかみ、



① YはIの右手首を捕り、左足蹴りこまんとする。



④ Yはたまらず腰落としギブアップ。



③ Iは捕り手を下におして引いて、Yを泳がせすわらせる。

⑤ Y体を前に引き倒し、Iは左手にてIの右手を大逆にとりながら、IPAを頭部につけて極める。



① Y右足にて押し蹴りに来る。Iは体変、IPEにて又はPどこでも亦PでなくI右前腕にY右足のせるように抱えどりにてもよし。ようするに、Y右足蹴りに対し、体変しながら捕ると云うことである。

② IはYの右足を抱え捕りに極まった所で、IはPBCを左手にて捕り、CEにてYの右肋骨折りに締める。



①前と同じく、Yは右手前にして
I右手を捕りに来るを、Iは体
を落とす調子振りにより、右手
をY右手外より上に廻し捕り。



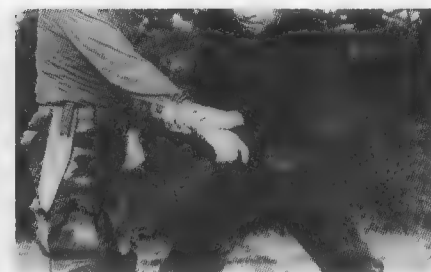
②I P B CをYの左手肘外より廻
込み、IはYの左手下よりI P
B Cを捕り。



③はYの両腕溺めにとりに締め
ながら体変。Y自然に転倒、腕
折りの事。と同時にYの左下腿も
極まることとなる。



②Iは肘を曲げながら体変。即ちI
PをYの右手外に出ることになる。
次に、I右肘にて体の変化により
Yを惑わす。



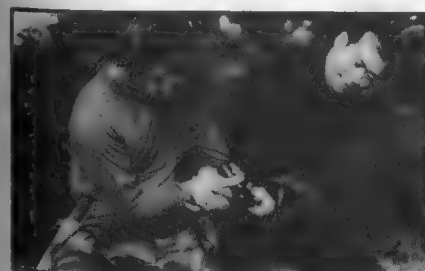
①YはIの右手を、両手にてガッチ
リと捕り押さえる。



④IはYの左上よりP B Cを握り、
その左前腕締めに行く。虚Y動け
ば、Iの左肘にてYの歯止めに行く。



③必然的にYの右手逆型になって行
く。



⑤Yの両腕締めに出る。勿論Iの左
膝はYの右膝を捕っている。Iは
自由変化にYを捕る事が出来る。





⑥体にて極めながら、Yの右止前にIの左足はYの右足前より入り込み、次の変化待ち。



⑤I右足廻し引き体変。左肘にてYの右肩当て右手抱え型に、Yの右腕逆に捕り。



⑦Y変化すれば、IはYの右足折りに体落とし極めて行く。右手右足Yは逆折りと共に、Yの右足折りにもなっている。上腕下腿の二方向同時虚実捕りの事。



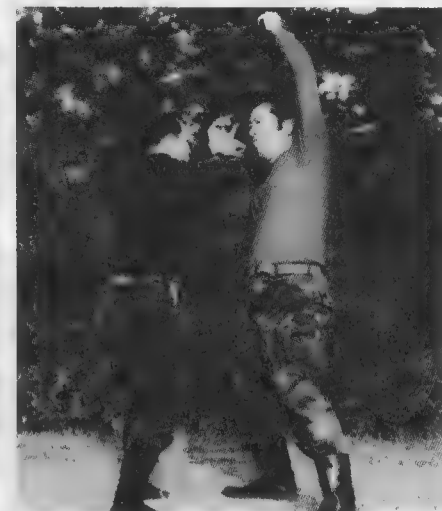
②IはYの裏鬼碎がけに對し、体変にて抜く。



①YはIの右腕をY左手にてはね上げ、受けに出ながら、右手にて裏鬼碎型にかけ、Pを捕らんとする。



④一方、Iの左拳Yの右霧霞を打ち込みの変化にてもよし。



③実をみて虚に入り、Iは立つことあたわざれば、Yの攻撃に對し体変、潜型横流れを利すこともある。

① Yに右脇よりI-Pをとられんとす。YはIの右手を左手にてIの上腕を抱え、その右手にてI-P手首を捕り、Pをとらんとす。



② YはI-PのBCを左手で捕り行き、手のもちかえとなる。



③ Iは体変、潜型に行きながら、Yの右手下より捕りながら、



④ I-P AをYの左雨戸に極める。



⑤ 又はYが同じくI-Pを抱え捕りに来るを、相手の氣に上じて右肘にてその左歯止め。



⑥ 打ちとばす。亦IはYの左強経時を踏むことによつて、Yの攻撃を避ける事が出来る。



② I は Y の左より右に体を抜け、



① Y は I の右腕を左手にて抱え捕り、右手にて I P B C を上より捕る。



③ I は左手にて Y の左七抜打ち込み。I 左肘に締め打ち、一方 I 右肘にても Y 左脇攻撃に出る。



④ I は Y を後方捕りて、Y の体を仰向けに倒すか、首より Y を俵投げに後方へ落とす。



⑤ I は Y の体を後方に流がし、仰向けに倒れるを、I 左様にて Y 右脇当て、又は押え極め、残心。

⑦ 前に続く。Y は I P の B C を、上より握り I の手より P をとる。



⑧ I は P の口引き金の方より、左手にて P をとりながら、I の右肘にて下より Y の左顎をはね上げ、



⑨ I 左手にて P をとり、右手拳にて Y の朝霞跳ね上げ、打ち倒す。



この技は、Y に P を捕らして捕ると云う捨身技の一種である。

④ I は入身。Y の七抜を P E にて
打ち込みながら、



⑤ I 体を立てなおす。P
C にて Y の右抱を打ち
落とし極める。又は I
右足にて Y 鈴を蹴り止
める。又は Y 右足内側
より払い蹴りに極む。

① Y は右足にて蹴り込み来る。I
左に体変、右手にて払いかわす。



② I 体変。右手にて Y の右足抱え
るようにして、P E にて Y 股骨
内側を抱え打ち、



③ Y たまらず一転逃げんとするを、
I 左手にて Y の右足捕り、





⑤P、E当てに押し込む。

⑥Iは変化してIPBCを捕り、首締めに行く。



相手と組んだ、又は捕られた時、投げられた時、うたれた時、驚かすI Pにて、Y急所に反射的に当て込めば、Yの戦闘力は奪うことが出来るのである。敵に投げられながら、避ける勝つ方法を会得してもらいたい。



I右手P前方に構える。Yは左手にてI Pを払いつかみながら引き込み、右手Iの右手下より入れて背負い投げにくる。

①Iは背負い投げにさからわず、左手だらり背負いにかかりつつ、



②Iは前転しながら前に返り、Yの左手をIの左手にて捕り、体変しにYを倒し、



③Iは左手にてYの首にかけ、右手P EはYの胸骨に当て、

② I は P E にて Y の右手甲を押し極めながら、Y に I P A を向ける。



① Y は I の首を左手にて片手締めに行くと同時に、左手にて I の左手も捕る。



③ I は体を右に体変しながら、I P C を Y の右手内側にかけ引き込む。



④ Y の体は右手竹折りになる為、左手をはなす。この際、I の左手拳にて Y の左弱筋払減。金的声催。何にてもより打ち込む。

⑤ I は P C にて Y の右手捕りのまま、左膝つきながら体落とし。I 左手は Y の首を捕えて、



⑥ I 体を変化させることにより、



⑦ 前方に首投げに極めながら、I P A にて当て込み。同時のこと。



① Y は両腕にて綾に首締めにくる。I は P A にて、Y の左脇密星に打ち込む。



② Y 痛みの為のがれんとするのを、I は、左手にて頭を捕り、右手にて Y の左腕大逆に捕りつつ、P A にて Y の血ダメ当てのこと。



① IはPにて捕える。Yは隙を見て、右蹴りにIを飛ばさんとす。事実、YはIのPを完全に蹴り飛ばしたものだ。



② 瞬間、Iは右第二指を曲げるだけで、Pの引き金所にひっかかりくると廻り、PはIの手より飛び離れることがない。



③ Iは左足一歩後退しながら、左手Pにそえて射撃の構え。残心。



① YPに捕える。Iは左足入身による体変術をマスターすることによって、この技は可能なのである。



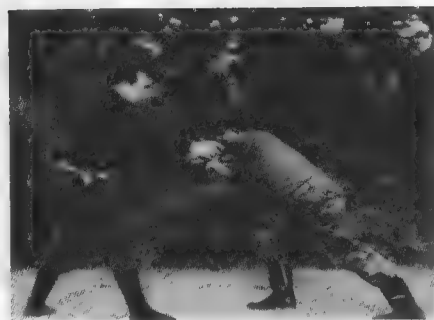
② Iは左足入身体変。拳流しの如くして、左手にてYPDをI体前面即ち右脇の支えと送るように変化して、



③ IはYPCを下より逆に捕り、Iは左手にYの右手竹折り型に捕る。



④ Yより捕ったIPEにて、Yの面部を当て倒す。



② Y P A弾道を左肩外にはづし避けること。第Iの斜行しのぎ体変、自然のこと。体動あるも無気自然の変化を会得すべし。



④ Yの右手Y P A下向けとしながら、Iの前方より左に運平し、Yの右小手表逆捕りに行き。



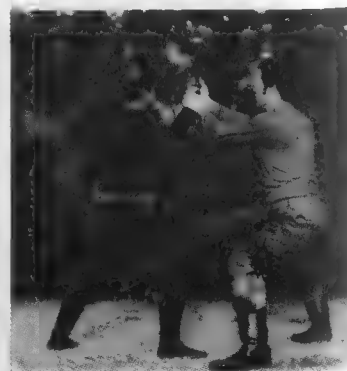
⑥ Yは力により返さんとするを、Iは表逆のまま竹折り、Y P AをYの咽喉に当てる。



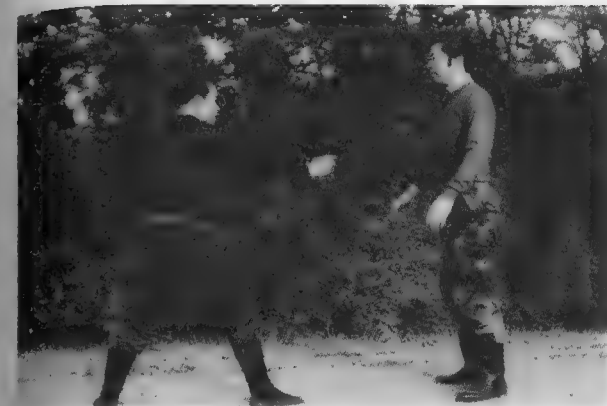
① Y P Iに向ける。I ホールドアップ。



③ IはYの前腕を左手にとりながら、右拳Y急所折ち。すみやかに一内同調。



⑤ IはYの右手を表逆に高く上げる、Iは体落としながら、調子でY体を崩すこと。



① 引き続き。前記の入身体変の拳流しの妙術を会得しないと可能としない術である。よくよくこの体変の骨法を会得して下さい。



② I右足右斜め前に入身。Iの右手はY P Dより引っかけ捕りに流すのですが、この際大事なポイント、Y P Aを流し去ると云う心意気である。



③ Iは左手にてY Pを抱えはさみ、Iの右前腕はYの右腕逆捕り地獄極め。楽捕りに変化するのである。ようするにYの右腕逆捕りのまま、Iの体の向きを変えることにより、Yを逆落としに極めると云うことである。



② I 体変同調、Y P 跳ね上げの機先となる。この際どの技でもそうですが、P A を我が体よりはずす手を心掛けることが第一である。



① Y P は突き出す捕えに来る。I は体変、左前腕にて Y P を払いに出る。



③ I は Y P B C をとり、Y P A を Y に向ける。



④ Y P を I は右手捕りのまま、Y P A を体にて押し、Y の右脇打ち込み。同時 I 右拳 P よりすべり拳として、Y 右仏滅打ち込んでもよし。

⑤ 或いは Y の声等どこにてもよし。P 又は拳にて当てること。Y の右手は片手にて、I の左手にて逆鬼碎型に極まる。変化に極めるもよし。



⑦ I 変化。表逆より左肘前腕にて Y 右前腕を捕り、



⑧ I の左膝拳は Y の右膝を捕る。Y の前腕も表逆竹折り型に締め行き、その右脇に Y P A を向ける。



⑨ Y は右足折りに、たまたらず Y P をはなす。I Y P を捕り、残心。

① YのPの構えを、Iは右手掌にて払い打ち上げる。



② 先づ何度も云いますが、体変の際YPAを避ける為に、YPAをI体の面積外にはずす払い方も、その様な心情が大事です。大きく強く払い上げる必要はないのです。YPAの射点をはずす。その心技体一転の変化を練磨すべし。



③ IはYの右足に体をのせるようにして左前方に倒れる。



④ Yたまたらず転倒。同時にIの右膝拳Yの右足折りに極まるのである。



① この技は、YPAを避けながら潜り型に体変し、



② Iは右拳にてYの右手下より打ち上げる。



③ YたまたらずPを飛ばす。これもPに対する捌き潜り型。一如の訓練の要がある技である。



② I は Y P A を恐れず、Y P A に
よりかかるようにして体を左後
方にすべり変化。Y P A はすれ
すれに、I の体から射点すれで
ある。



① Y P. I の背後より射ち
構え。



④ Y を逆投げに行く。この際、
Y 立ちなおらんとすれば、I
の鬼角拳にて、Y に当て入る。
Y の右腕逆捕りと変化。後転、
I 右足蹴り等がある。



⑦ I は Y の右肘逆折りに極め、
残心。

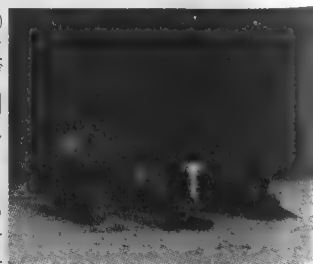
③ I は体変。体を落としな
がら、右手にて Y の右肘
下より抱え上げ、左手に
て Y の前腕を捕り、



⑤ I の投げ技、Y
にきまれば、



⑥ 投げ倒れた Y の右肘
を、I の右肘、又は
前腕部にて体と共に
押すことにより、Y
の右肘逆に捕られて
行く。



Y P A、I 腕につける。
この際 I は両手をあま
り高く構えないこと。



② I は体を落としながら、
左手掌にて Y の右手下
より打ち上げる。勿論
Y P A の射点はずす
事が第一である。



③ Y P A 上に向く。I は
右手拳にて Y 左仏滅す
くい打ち。I 左手にて
Y P を捕る。



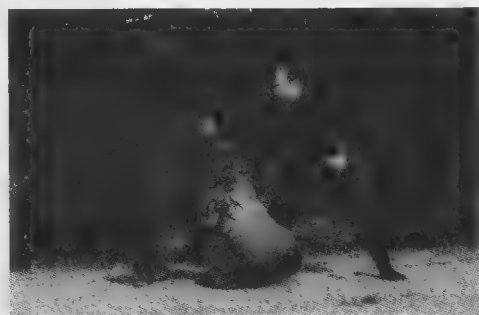
④ I P 左手より右手に構
え、残心。



① この技は体にて Y P を捕る技である。勿論 Y P A をさけながら、体転することが必要である。



② I は右斜前方に向って体転して、Y の急所を当て Y P を飛ばす秘技である。この一瞬 Y は I の体が消えたと思



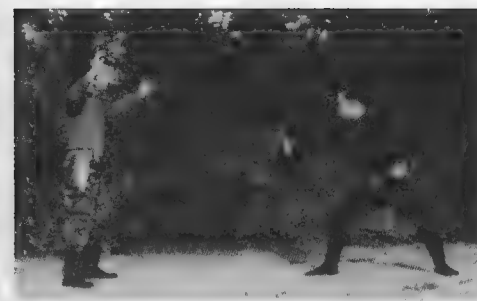
③ I 体転。Y の右腕に自然蹴りが入っている。亦は Y の左足砕きとなる。



④ Y たまらず極まる。この技は非常に危険です。お互に力を入れることなく、ゆっくり練習すること。



① Y より一寸はなれて、P にて構える。



② I ホールドアップ。併し古伝ではこの構えは包囲の構えなのである。



③ I は体のゆれにより Y P A を避ける。



④ 同時、右足にて Y P を蹴り飛ばす。飛鳥打ちの事。



② YPAをIの体右腕間に体変でながし、狭み捕り、Y右手体共に引かんとす。その機を利して、



④ YPA四論を体よりはらずしながら、Iの左肩首にてYの右前腕狭み支えとし、Iの左腕Yの右腕逆捕りに締める。Iは左足にて、Y右膝下捕り、上下捕り。



⑥ 三所一撃。YたまたずYP落とす。残心。



① 前に同じ。今度はYPAをIの右脇にやりすごす。必算。「ピストルから弾が出ないと云う真念を持つ事」



③ I体変。左肘拳にてY仏滅当て込み、YPをIの背中でそえ捕りの心意気に気で捕っている。



⑤ I上下極めにて行く。Y腕折りとYの右大腿折りに出つつ、Iの右拳攻撃も加わる。三急所一にして攻撃。

① Y後方より、Pにて捕え来る。



② IはYPAを体すべりにて、右後方に抜け行く。



④ I-Pを捕りしまま左肘上に上げる。Y朝霞打ちとなる。



③ Iは左手にてYPを抱え捕りに行き、この際、I左肘拳にてY水月当たることもある。



⑤ IはYPを右手にて捕り、Y右龍門を左肘拳にて打つ。



⑥ 又は、変化によつては左肘拳Y右雨戸当て、



⑦ Y右脇にI-PAを当て極め、後ろ倒し。





① Y ① ②の後方脇下より両手にて抱え捕りに来、締め来る。Y ②右突きに来る、



① Y ① ②の後方脇

下より両手にて抱

え捕りに来、締め

来る。Y ②右突き

に来る、

② Iは右足を後屈し

ながら、Y ②突き

をかわす。案山子

一本足振りの体勢

の骨法を会得すべ

し。

③ Y ②拳用度来るさ、



③ Y ②拳用度来るさ、

前動作の如くI左足

伸し、Y ②の右踏

み足をI左足にて

捕れる所に隠し足

に位置する。

④ Y ②頭に登りしま

まの攻撃。Iは体

ゆれの虚に乗じて

Yの右足引き込み、

Yの右膝後ろより

釣捕り、に行き、

引き押しに変化。



④ Y ②頭に登りしま

まの攻撃。Iは体

ゆれの虚に乗じて

Yの右足引き込み、

Yの右膝後ろより

釣捕り、に行き、

引き押しに変化。

Y ②の右足捕り同

じくYの右手を抱

え捕りにしめつつ、

Yの手足二ヶ所捕

り。



⑤ Y ①の両腕も捕る

Iは体にてY ②も

同時しめながら、

これはY ②の逃げ

引きを利用の事。

でY ① Y ②二人捕

りになっている。

⑦ Iは立ち上がり

体変。二人捕り

に極め倒す。蹴

り込み、残心。



⑥ IはY ① Y ②の手

をI Pにて押し碎

き。即ちY ①の左

手Y ②の右手であ

る。



② Y ① N右突きに来る。IはPにてY ①小手打ちNを打ち落とす。



④ 逆捕り。Iの左脇にYの右手狭み捕り。Y ② Nにて突き来る。I半座体変。Y N右突きを、I PCにて叩き落とす。



⑥ Y ① Y ②を体の振りにより同時に極め倒す。



① IのPに弾丸なし。Y二人Nにて来る。Iは無情位取りの事。Y ①は黒の服、Y ②は白の上衣。



③ IはYの右手左手にて捕る。体変、Yの右手を頭越しに行きながら、

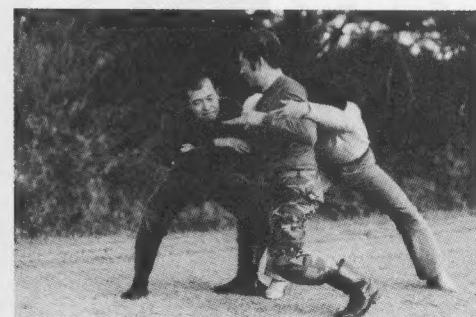


⑤ Y ①の右腕、I左腕にて抱えどりのまま、Y ②の右手I左手にて捕り、I PCAにてY右手星を打ち込みながら、

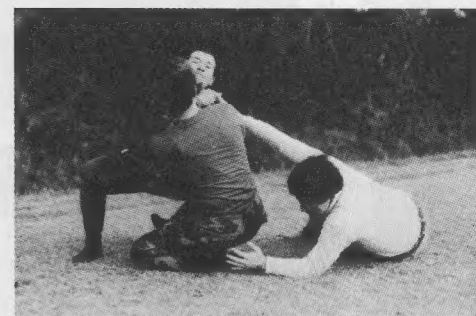
① Y①の右手Pを抱え捕り。Y②はIの両上腕を、後方よりカンヌキ締め捕り来る。



② Iは体の力を抜きながら、右に自然に体落とし、ながら廻ることにより、Y①Y②共に転倒しそうになる。この際、IはY①Y②の強経、又は肘を当てることで可能である。



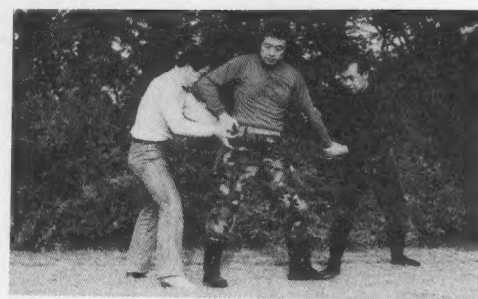
③ 体旋IPAをY①の朝霞に向けつつ当て込む。振り当てながら体を沈まして行く。龍巻き型と云う。



④ Iは龍巻体変型により、Iの右肘左PにてY①Y②の急所を振り当てに極め、Iの体前転後転にて、再度Y①Y②体に当て砕くのである。



① Y②IPDEを捕って、引き抜き捕らんとす。



IPを右手にて一寸おさえる。Y①I①左手両手にて捕りに来る。

② ①はさからはずY②の隙に乗じて、Y②の朝霞右肘にて打ち上げる。



③ IPすばやく引き抜きざま、IPにてY②左霞打ち。Y②おびえる。



④ I左に向き返りながら、左手にてY①の左手を引き上げ、逆捕りのごとくして、Iの左肘にてY①の脇当て、体旋一如。IPにてY①の確打ち倒す。



「なす技を己が力と人は云う 神のみちびく身と知らずして」と云う古歌があるのですが、武芸の極地と云うものは、こう云うものなのです。危険を避ける護身術、護心術と云うものは、心身の練磨によって正しく武風一貫して生きると云う日常が神に通じ神技を生むのですね。

オハイオのマイアミキャンプのセミナーで、私はこんなことをやってしまいました。柳生宗矩が小姓に刀を持たせ、満開の桜を心うつろに眺めていました。その春の後姿を見た小姓が、「わが殿がいかに名人とは云え、この機に刀で斬りつけなば、かわすことが出来まい？」と考えた。とたんに宗矩は殺気を感じて、座敷へと避難したと云うことである。私は宗矩以上のことをやってのけてまして。数百名のプロマーシャルアーチストンの見ている前で、その実の体験者、ヘイズ君に、その時の様子を手紙で書き送らせたものの原文のまゝ御紹介しましょう。

物質的欲望がある程度満たされたアメリカでは、個々の幸福、充足は物質で埋められるものでなく精

神的なものの復活を求める風潮が高まっている。アンディアダムズの本に紹介された忍者の持つ神秘的な精神力、丸字、十字は多くの人の心をとらえ、生徒の間でこの話題はひっきりなしに持ちあがっていた。日本滞在中、主な修業は体術に費した自分はこの丸字と十字の知識に欠けていることを自覚していた。熱心で誠実な生徒からこの精神力に関する質問が出る毎に心が乱れた。自分自身でも一体それが何であるのか確かでなく、答え方に困り果てていた。こうした困惑から自由になろうと密教の研究に足をふみ入れたが、疑問はますます深まるばかりであった。

先生の滞米中にこのことをきり出すと、先生は忍者の密教の意味をいかに理解するかについて、いくらかのアイデアを与えて下さったが、それは単に言葉で片付けられるものではなかった。丸字、十字を理解する鍵は体術の中にあると説明の言葉も理解しがたいものであった。悶々とした闇の中で一条の光が輝いたのは、フェスティバルも終盤に入ったある

午後であった。デイスカッションの途中先生は私に後からいつでもよいからなぐって来いと命令された。驚きと当惑でしばらくためらったが言われた通りにすることにした。先生は背を私に向けられ、誰かの質問に対する解答の途中であった時、私は先生の顔をめがけ、フルスピードの右手パンチを放った。先生は会話を中断することもなく、二・三センチ頭を動かされ、私の放ったパンチは宙にぬけた。先生の行為は非常に早く、しかも自然であったので多くの人が何がおきたのか気付かない様子であった。しかし何人かの生徒と私は目の前で演じられた驚くべきパワーに、一瞬その場だけ時間がとまってしまったような感覚をおぼえていた。後をふり返った先生の『これが丸字だよ』という言葉で我に返った自分を見い出していた。その夜は昼間のことが思い出され、先生の行為は自分にとって一体どういう意味なのかをさぐり出そうと一生懸命であった。そういう私の葛藤が先生にはお見通しだったようである。

翌日、昨日のことをどういう風に生徒が感じたか

聞いてほしいという先生の熱心なりクエストで、デイスカッションの中に持ち出した。この時正直いつて何故生徒の感想がそれ程先生にとって重要なのかよく理解できなかったが、一応きいてみることにした。多くの意見と感想が出たが、どれも先生の意図された本質とは多少のずれがあるという解答であった。私は生徒からの反応を興味深く聞いていたが、ある一人が『それは先生が殺気を感じられたからでしょう』とたずね、先生が『ノー殺気じゃないよ』と即座に答えられた時、一瞬、目の前が明るくなるのを感じた。先生が生徒に感想を聞かれた理由は、私に先生の行為の最高の意味での衝撃と『これが丸字だよ』の言葉が何が意味するものなのかを、理解する機会を与えて下さりたかったからだということが突然わかったのである。私に対する個人的レッスンを皆に示すデモンストレーションの中で、カモフラージュして私に示して下さったのである。その興味の中で先生をふり返ると、いつものスマイルが私に向けられていた。先生は私に真実をみせるるために

私をトリックにかけられたのである。このため大きな危険を冒し、賭をして下さった先生に言葉ではないつくせない感謝の気持ちを表し、私に残して下さった最高のギフトを人生の宝としたいと思います。

ステイブンヘイズ・記

私はつくづく考えるのに、何故この様なことをやったのか、今考えると相かわらず俺は馬鹿だなと一人笑いが出るのである。兵法の一語に、あるかと思えばなし、なしと思えば有る、美妙なる実とありますが、そんなものです。妙技とは、師がよく言われました。術を修業一貫したところに奇績が生まれるものであると。諸氏は現代風にアレンジされたナイフ術ガン術とは言え、根底に流れている者は、千年の歴史を正しく生きぬいて来た生命力があると罵うことを知って裁きたい。そして正義の道、誠の道を歩く為の糧としていただきたいものです。「この術悪用すればかならずやれ滅される」と言う律が或神館道場にはあります。故に私は、当道場の士進師（先生）について危険のないよう、安全に、悪用することなく正しく修業されるこ

とを、この本を見た諸君に重ねてお願い申し上げます。「ヘイズ君が、後方よりパンチを放った。その時先生は二、三糧頭を動かされたと見ておりますが、後頭部の中心から二、三糧右に振っただけでは当たってしまふのです。私はその時膝が七糧体を右に移動させていたのです。合計糧体変えているのです。皆さんに武道の極意とはこのようなもので 見ているようで見えない部分が、修業の過程によって表われていると言うことです。何よりも、武風一貫が、最高の極意なのです。私は彼等に申しました。キープ・ゴーイング!!」

昭和五十八年二月四日 立春の日 脱稿

白龍翁



ナイフ術ピストル術の技術程度、その過程を評価するものとして、ナイフ術、ピストル術の段級位の免許を武神館道場では審査し授与しております。希望者は本部道場に入門して当道場士道師により所定の教程を経て、免許を受けることが出来ます。

武神館道場本部

千葉県野田市野田六三六
電話〇四七一②二〇二〇

宗家 初見良昭 号白龍翁